

令和 2 年度戦略的基盤技術高度化支援事業
(サポイン事業における効果的な情報発信、事業化支援に関する調査事業)

報告書

2021年2月

株式会社 **ピコ・ナレッジ**

1. 本事業の実施概要

2. 事業の実施内容

- I. 今後の情報管理のあり方検討
- II. 令和元年度事業終了分の事例集（事例データ）の作成
- III. 掲載データの更新
- IV. サポインマッチ・ナビの改修検討

3. 効果的な情報発信、事業化支援の在り方

- I. サポインマッチナビのPR・周知方法
- II. 効率的な調査の実施

- ・本事業において、下記の事業内容を実施いたしました。

< I. 今後の情報管理のあり方検討 >

- (1) Web-APIによるサポインマッチナビデータ提供の具体的な仕組みの検討
- (2) サポイン事業の基本情報を統一的なフォーマットで管理していくシステムの検討
(サポイン案件管理システム)

< II. 令和元年度事業終了分の事例集（事例データ）の作成 >

- (1) 令和元年度に終了した115件のサポインプロジェクト情報データの作成
- (2) 事例ナビ（ミラサポ plus）用データの作成
- (3) 取材によるサポイン好事例記事の作成

< III. 掲載データの更新 >

- (1) サポインマッチナビに登録済みのプロジェクトの事業化状況を更新

< IV. サポインマッチ・ナビの改修検討 >

- (1) 第三者による分析・評価
- (2) 改修内容の決定
- (3) テストサイトへの反映

2 事業の実施内容 I. 今後の情報管理のあり方検討（WEB－API）

サポイン事業の情報発進力強化のため、Webサイトによる情報発信のみならず、APIを公開し民間企業等での活用を促すシステムの在り方について検討しました。

<サポインマッチ・ナビのWEB－API検討の経緯>

サポインマッチナビサイトから得られる基盤情報・データを、民間事業者が実施するビジネスモデルでの活用やデータ連携で、川下事業者との効率的なマッチングに向けた活用を図る。



民間事業におけるサポインマッチングビジネスのプラットフォーム化を実現

<APIとして公開するデータ、サービス>

- ・ 民間事業者の独自サービスから閲覧するサポインマッチ・ナビが提供する基盤情報
 - － 好事例情報データ、および、技術情報データ
 - － 事業管理機関情報データ、および、研究等実施機関情報データ
 - － 関連イベント情報

<APIの利用シナリオ>

- ・ 民間事業者の独自サービスからサポインマッチ・ナビが提供する参照系情報を取得するAPI

■WEB－APIの構成イメージ

<APIサービスの実装>

- ・サポインマッチナビサーバ内にAPIサービス領域を構築
- ・インターネット網からWEBサーバ経由でAPIサービスにアクセス

サーバ構成とネットワークイメージ

<サーバ環境（参考値）>

■ API仕様等

< API仕様 >

通信プロトコル	HTTP
セキュリティ	SSL 対応（TLS1.2 のみ）、IP アドレス制限
HTTP メソッド	GET
リクエスト	Content-Type application/json
レスポンス	Content-Type application/json
文字コード	UTF-8

< API開発範囲 >

HTTPリクエスト／レスポンス
メッセージ
データベースアクセス
キャッシュ

□参照処理の流れ

- ①HTTPリクエストのバリデーション
- ②データセットを構成するDBへのクエリ
- ③データセットの組み立て
- ④HTTPレスポンスの返却

■ API 公開機能

< 好事例情報データ >

サポインマッチナビサイトの「サポイン好事例を探す」のページ

① 好事例情報一覧

- ・ リクエスト 好事例データ一覧取得
引数 フリーワード
基盤技術分野
事業終了年度

- ・ レスポンス ヒット件数
好事例データ

※ ヒット件数が101件以上の場合は「101」、
データは101レコード数固定

② 好事例情報

- ・ リクエスト 好事例データ取得
引数 好事例ID
- ・ レスポンス 好事例データ



< 技術情報データ >

サポインマッチナビサイトの「サポイン技術検索」のページ

①技術情報一覧

- ・ リクエスト 技術データ一覧取得
 - 引数 基盤技術分野
 - 事業化状況
 - 所在地
 - フリーワード
 - 詳細条件

- ・ レスpons ヒット件数

技術データ（基本情報）

※ヒット件数が101件以上の場合は「101」、
データは101レコード数固定

②技術情報

- ・ リクエスト 技術データ取得
 - 引数 プロジェクトID
- ・ レスpons 技術データ
 - （基本情報、詳細、事業化への取組、
研究開発体制、参考サイト、企業情報）

The screenshot displays the Sapo-in Technology Search interface. The top section shows search filters: 基盤技術分野 (Base Technology Field), 事業化状況 (Commercialization Status), 所在地 (Location), フリーワード (Free Word), and 詳細条件 (Detailed Conditions). The search results show 1982 hits. Below this, a specific project is highlighted for 'キョーユー株式会社' (Kyōyū Co., Ltd.), titled '安価でメンテナンス性に優れたプレス用金型(パンチ)の開発' (Development of cost-effective and maintenance-friendly press dies (punches)). The project details include: 精密加工 (Precision Machining), 対象となる産業分野 (Target Industry Field) as 自動車 (Automotive), 産業分野でのニーズ対応 (Response to needs in the industry field) as 環境配慮、低コスト化 (Environment-friendly, low cost), キーワード (Keywords) as プレス金型、分割パンチ、低コスト化、短納期、エコ (Press die, split punch, low cost, short lead time, eco), 事業化状況 (Commercialization Status) as 事業化に成功し継続的な取引が続いている (Successful commercialization and ongoing transactions), and 事業実施年度 (Implementation Year) as 平成18年度～平成19年度 (Heisei 18th ~ 19th year).

< 事業管理機関情報データ >

サポインマッチナビサイトの「事業管理機関を探す」のページ

①事業管理機関一覧

- ・ リクエスト 事業管理機関一覧取得
引数 フリーワード
主たる支援地域
所在地
支援実績のある技術分野

- ・ レスポンス ヒット件数

事業管理機関データ

※ヒット件数が101件以上の場合は「101」、
データは101レコード数固定

②事業管理機関

- ・ リクエスト 事業管理機関取得
引数 法人番号
- ・ レスポンス 事業管理機関データ
相談窓口データ
支援実績データ



< 研究等実施機関情報データ >

サポインマッチナビサイトの「研究等実施機関を探す」のページ

① 研究等実施機関一覧

- ・ リクエスト 研究等実施機関一覧取得
引数 フリーワード
所在地
支援実績のある技術分野

- ・ レスポンス ヒット件数

研究等実施機関データ

※ヒット件数が101件以上の場合は「101」、
データは101レコード数固定

② 研究等実施機関データ

- ・ リクエスト 研究等実施機関データ取得
引数 法人番号
- ・ レスポンス 研究等実施機関データ
相談窓口データ
支援実績データ



<関連イベント情報>

サポインマッチナビサイトの「新着情報」のページ

①関連イベント一覧

- ・ リクエスト 関連イベント一覧取得
引数 区分（公開情報
イベント
サポイン技術
その他）
- ・ レスポンス 関連イベントデータ



■ API 機能の運用に関する事項

<バージョン、リリース管理>

- ・ API 利用サーバ側の利便性や視認性を考慮し、ディレクトリにバージョン番号を付与する
- ・ リリース情報は、サポインマッチナビサイトの新着情報（その他）に掲載

<利用者向けサポート>

API を利用するにあたり、使い方を理解するためのドキュメント類

- ・ 静的 API ドキュメント（PDF）
- ・ SDK

<API の監視、障害対応>

- ・ サーバ、ネットワークは、庁内のセキュリティ準拠に伴う監視
- ・ API は、処理のログを保存

サポイン終了後のフォローアップ等をより適切かつ効率的に行うため、サポイン事業の基本情報を統一的なフォーマットで管理していくシステムについて検討しました。

<システム検討の経緯>

- ・ 事業管理機関、研究等実施機関からの事業報告を、経済産業各局でそれぞれ管理しており、情報管理が煩雑となっていることから事業データにおいて管理の一元化を図る。
- ・ 事業データを中小企業庁、経済産業省各局でそれぞれ独自様式（主にExcel）で管理しており、情報項目や内容に不整合やバラつきが多く、資料作成等の事務作業や情報管理が煩雑となっている。



経済産業省各局による事業データや、各機関の報告データの管理を一元的に行うシステムを構築し利用することで、統一フォーマットでの管理・共有を可能にしデータを維持するとともに、各担当による資料作成等の事務作業軽減を図ることを目的とした、適切なシステム像を検討する。

■システム概要

①構築方法

- ・システムは昨年度、構築したサポインマッチナビWEBサイトの管理システムに機能追加することで構築する。
経済産業省が所管する既設のサーバ内にあり、各局からシステムに接続し利用可能となっている。

②機能概要

- ・既存のプロジェクト管理機能（サイトに公開している情報）に加え、下記の情報を登録・管理できるようにする。
 - －審査情報（不採択の申請情報も含む）
 - －採択～事業終了までの情報管理
 - －事業評価
 - －事業化状況調査の管理
 - －フォローアップ調査の管理
- ・登録したデータは任意で選択したものをCSVで抽出できるようにする。

③その他

- ・サイトに公開する情報は、あくまで既存の「プロジェクト管理機能」に登録された内容のみとし、他機能に登録されたものは原則、サイト上に公開しないこととし、分かりやすく住み分けする。
- ・極力、二重登録の手間が発生しないよう、1機能に登録した情報を他機能に自動で表示（もしくはコピー）できるようにする。

■システム特徴

- ・複数のエクセルファイル及びシートで管理していた情報が一元化され、管理・検索が容易になる。
- ・各局が対応している中小企業庁からの依頼資料作成が容易になる。
C S V 出力機能で独自の資料作成・分析も可能。
- ・データ紛失の恐れが低減される。
- ・既設の仕組み（サポインマッチナビ）を活用することで構築コストを低減できる。

<補足：サポインマッチナビについて>

- ・2019年度に構築したサポインに関する様々な情報を紹介するポータルサイト。
終了済みのサポイン事業の技術情報、サポイン事業の好事例、事業管理機関・研究等実施機関の情報、等のコンテンツを紹介している。
- ・掲載されているほとんどの情報を簡単に更新できるシステム（CMS）が組み込まれている。
中小企業庁だけでなく、経済産業省各局も使用可能。

【サポインマッチナビ トップページ】



【サポインマッチナビ サポイン技術情報ページ】



■サポイン案件管理業務のシステム化における業務とデータ

- ・サポイン案件管理業務とは、サポイン事業における事業案件の交付申請と審査情報の管理、採択された補助事業の実施状況（交付決定額・確定額等）の管理、事業評価、事業後の事業化状況調査管理、および事業後フォローアップ調査管理に伴う範囲のデータ管理支援業務と考える。
- ・サポイン案件管理業務の管理事業は、サポインマッチナビのプロジェクトと一意と考えることから、サポインマッチナビにプロジェクト登録された事業を範囲とする。

【データの一元化に伴う関連データ】

- ・サポイン事業案件（申請・採択・不採択）の関連データ
- ・審査情報の関連データ
- ・事業実施状況（交付決定額・確定額・連絡先等）の関連データ
- ・事業評価の関連データ
- ・事業化状況調査の関連データ
- ・フォローアップ調査の関連データ
- ・その他（サポインマッチナビの既存データ）関連データ

■サポイン案件管理システムの構成イメージ

<システムの実装>

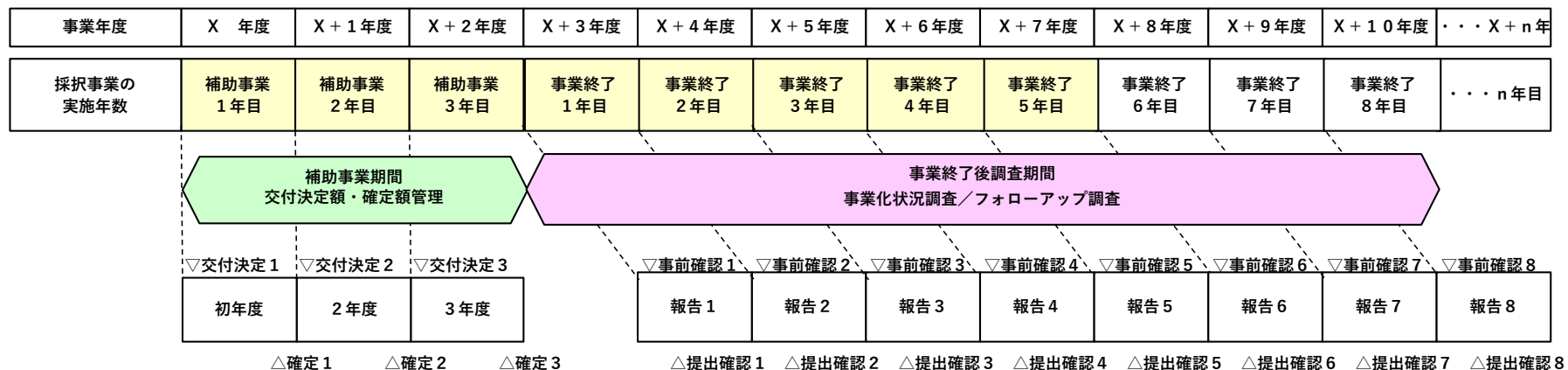
- ・サポインマッチナビの環境上に構築
- ・サポイン案件管理機能のアドオン

<サーバ環境（参考値）>

サーバ構成とネットワークイメージ

■採択後の経過年度における実施状況の考え方

- ・サポイン事業の経過年毎の実施状況は下記の通りとなる。



採択事業の補助対象期間 ： 3 ヶ年

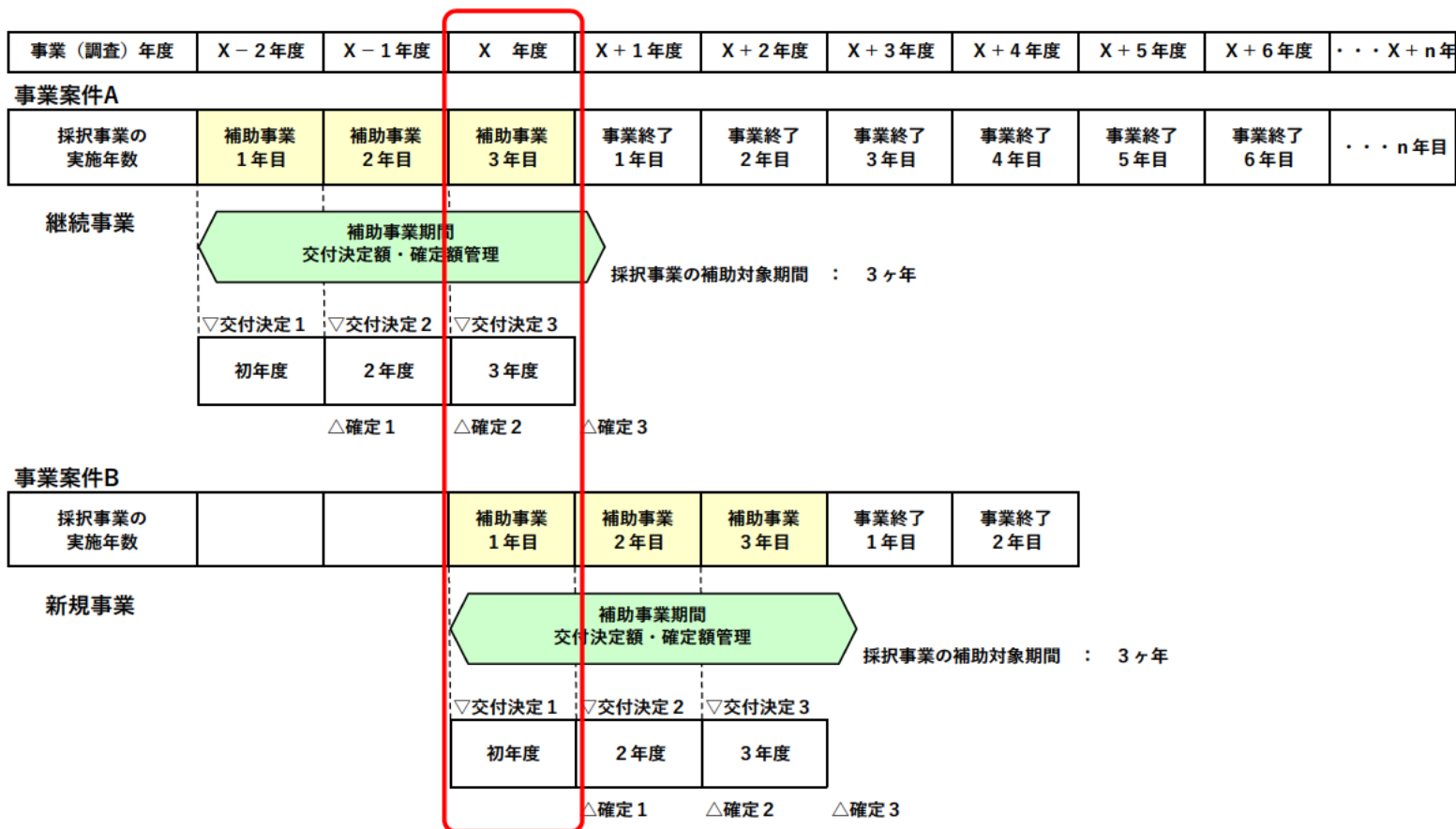
■事業年度を基準にした実施状況の考え方

- ・事業年度を基準にした実施状況は下記の通りとなる。

事業年度 X年度において

事業案件Aは補助事業3年目であることから採択後3年度で継続補助事業である

事業案件Bは補助事業1年目であることから採択後1年度で新規補助事業である



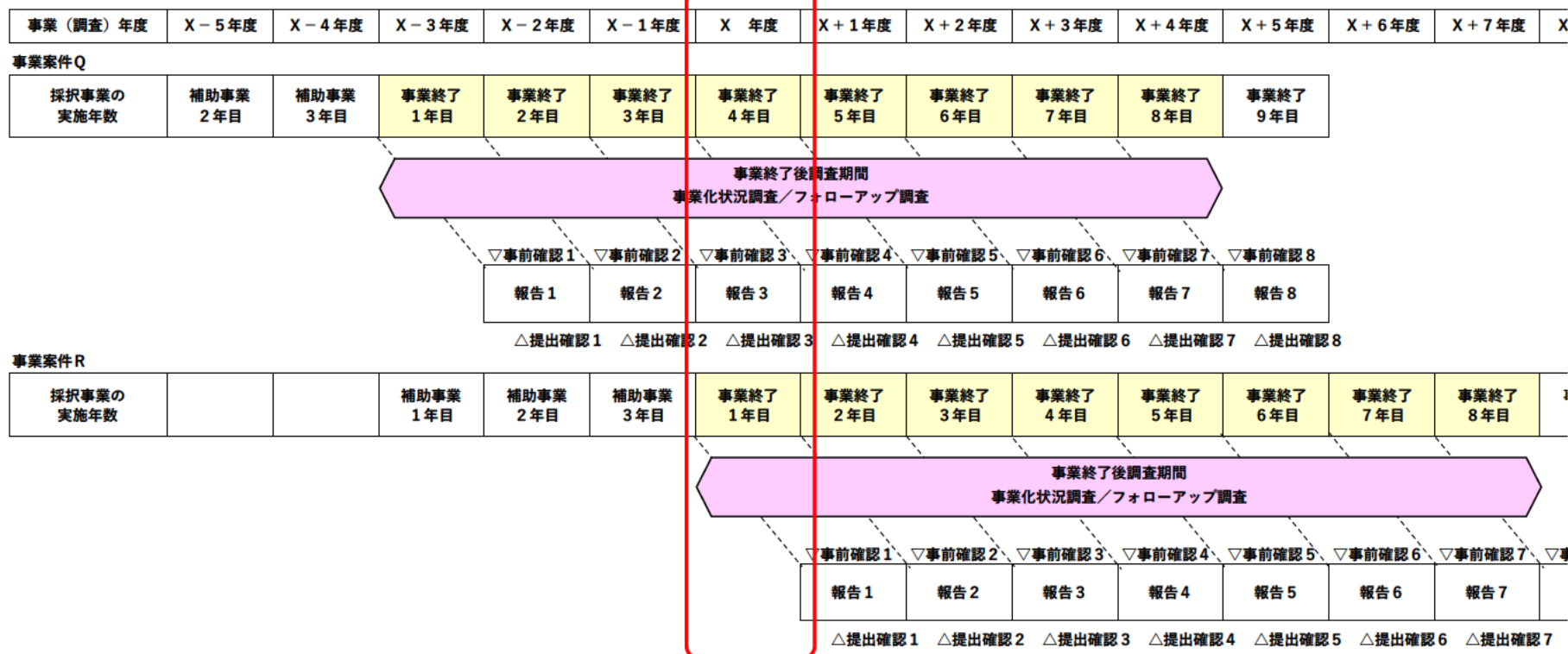
■事業年度を基準にした事業終了後の実施状況の考え方

- ・事業年度を基準にした事業終了後の実施状況は下記の通りとなる。

事業年度 X年度において

事業案件Qは事業終了4年目であることから採択後7年度目で事業化状況報告－報告3事業である

事業案件Rは事業終了1年目であることから採択後4年度目で事業化状況報告－報告なし事業である



■サポイン案件管理業務のシステム化における業務とデータ

- ・管理者業務における各業務機能は下記の通りとする。
- ・ログインしたユーザが経済産業省各局の場合は、その管轄エリアのみの閲覧・登録・編集に限られる。

業務機能名	概要
①プロジェクト管理 （サポイン事業案件管理）	サポイン事業における交付申請中、採択、不採択、および、事業後の事業一覧を閲覧
①－1プロジェクト基本情報	既存のプロジェクト基本情報に事業後フォローアップ機能（受付番号等）の付加情報を追加
①－2審査情報	申請事業に対する審査情報を登録、編集
①－3採択～事業終了情報管理	補助事業の実施状況（交付決定額・確定額、連絡先）を登録、編集
①－4事業評価	補助事業の中間評価、最終評価データを登録、編集
①－5事業化状況調査管理	事業後の事業化状況報告データの登録、編集
①－6フォローアップ調査管理	事業後のフォローアップ調査報告データを登録、編集
②サポイン事業データ出力	サポイン事業案件の補助事業、事業後の各報告データを基に抽出条件の設定値と出力項目の選択による抽出結果データをCSV出力

■案件管理システムの機能

<①プロジェクト管理（サポイン事業案件管理）>

サポイン事業申請されたプロジェクトを対象に事業状態（採択・不採択）一覧を表示する。

【絞り込み条件】

- ・ 状況（採択／不採択／申請中）
- ・ 事業（開始）年度
- ・ 都道府県
- ・ エリア（ログインユーザが経済産業各局の場合は、経済産業各局の管轄を固定）
- ・ プロジェクト名

【ページイメージ（案）】

<①－1 プロジェクト情報>

- ・サポイン事業交付申請時に採番する受付番号
 - ・サポイン事業の採択／不採択／辞退の区別
 - ・申請時、採択・不採択後における項目の
任意／必須の入力コントロール
 - ・基本情報（プロジェクト名、基盤技術分野、
実施年度、事業管理機関、研究実施機関など）
を他機能（画面）の情報に流用
-
- ・プロジェクト実施体制の変更における各機関の
参入、撤退のコントロール

【ページイメージ（案）】

<①－ 2 審査情報>

- ・ 申請された事業に対し、行った審査結果の評価データを登録、保存する。
- ・ 事業管理機関、研究等実施機関および、アドバイザー機関を保存する。
+ ボタンにより各機関の追加登録を可能とする。
- ・ 自機能で登録した機関情報は保持し他機能への連携、コピーをコントロール
- ・ 評価点数を保存する。
- ・ 審査情報は、他機能とのデータ連携はしない。
(審査当時の情報は変更されないようにする)

【ページイメージ（案）】

・審査情報のデータ項目

項目	
基本	受付番号
	事業計画名
	特定研究開発等の要約
	主たる技術
	従たる技術
	利用技術
	研究開発成果の活用を想定している川下分野
	主たる研究開発等の実施場所
事業管理機関	初年度後部申請額(円)
	事業管理機関名称（連名代表者）
	法人番号
	本社住所（都道府県）
	資本金（万円）
	設立・創業年（西暦）
	従業員数（単位：人）
	属性

項目		
研究等実施機関	研究等実施機関名	
	法人番号	
	本社住所（都道府県）	
	資本金（万円）	
	設立・創業年（西暦）	
	従業員数（単位：人）	
	1 属性	
	:	
	研究等実施機関名	
	法人番号	
実施機関	本社住所（都道府県）	
	資本金（万円）	
	設立・創業年（西暦）	
	従業員数（単位：人）	
	n 属性	

項目		
アドバイザー機関	アドバイザー機関名	
	種別	
	1 マーケットアドバイザー	
	:	
評価	アドバイザー機関名	
	種別	
	n マーケットアドバイザー	
	:	
評価	政策点	政策点
		経産局点
		合計
	技術面評価	技術面評価点数①
		技術面評価点数②
		技術面評価点数③
		技術面評価点数④
		合計
	事業面評価	事業面評価点数①
		事業面評価点数②
		事業面評価点数③
		事業面評価点数④
		合計

<①－ 3 採択～事業終了情報管理>

- ・ 補助事業の実施期間における状況報告と対になる
交付決定額・確定額等の報告データを登録（編集）、
保存する。
- ・ 機関名、法人番号をプロジェクト管理から取得
- ・ 各機関の連絡先等の入力
- ・ 交付情報の管理
- ・ 不用額の算出
（採択額－変更後交付決定額）
- ・ 執行率の算出
（確定額／交付決定額）
- ・ 年度別に各機関の途中参入・撤退を明示
- ・ 採択後の実施期間 3 ヶ年分を機関別に保存

・採択～事業終了情報のデータ項目

事業管理機関名称（連名代表者）		
法人番号		
住所		
代表者名・役割		
担当部署		
担当者名・役職		
担当者電話番号		
担当者メールアドレス		
事業管理機関名称（連名代表者）		
法人番号		
大学等種別		
住所		
担当部署		
担当者名・役職		
担当者電話番号		
担当者メールアドレス		
研究 実 施 機 関 1	研究等実施機関名	
	法人番号	
	大学等種別	
	住所	
	担当部署	
研究 実 施 機 関 n	担当者名・役職	
	担当者電話番号	
	担当者メールアドレス	
	：	
	研究等実施機関名	
法人番号		
大学等種別		
住所		
担当部署		
担当者名・役職		
担当者電話番号		
担当者メールアドレス		

項目 初年度 事業 機関 1	事業機関名	
	採択額	
	交付決定額	
	変更後交付決定額	
	確定額	
	執行率	
	不用費	
	うち間接経費	
	：	
	事業 機関 n	事業機関名
採択額		
交付決定額		
変更後交付決定額		
確定額		
執行率		
不用費		
うち間接経費		
合 計		採択額
		交付決定額
	変更後交付決定額	
	確定額	
	執行率	
	不用費	
	うち間接経費	
	交付決定日	
	変更承認日	
	完了届日	
実績報告日		
確定検査日		
確定日		
精算払請求日		
支払日		

項目 2年度 事業 機関 1	事業機関名	
	採択額	
	交付決定額	
	変更後交付決定額	
	確定額	
	執行率	
	不用費	
	うち間接経費	
	：	
	事業 機関 n	事業機関名
採択額		
交付決定額		
変更後交付決定額		
確定額		
執行率		
不用費		
うち間接経費		
合 計		採択額
		交付決定額
	変更後交付決定額	
	確定額	
	執行率	
	不用費	
	うち間接経費	
	交付決定日	
	変更承認日	
	完了届日	
実績報告日		
確定検査日		
確定日		
精算払請求日		
支払日		

項目 3年度 事業 機関 1	事業機関名	
	採択額	
	交付決定額	
	変更後交付決定額	
	確定額	
	執行率	
	不用費	
	うち間接経費	
	：	
	事業 機関 n	事業機関名
採択額		
交付決定額		
変更後交付決定額		
確定額		
執行率		
不用費		
うち間接経費		
合 計		採択額
		交付決定額
	変更後交付決定額	
	確定額	
	執行率	
	不用費	
	うち間接経費	
	交付決定日	
	変更承認日	
	完了届日	
実績報告日		
確定検査日		
確定日		
精算払請求日		
支払日		

<①－4 事業評価>

- ・ 補助事業に対する実施年度毎の評価表の評価データを登録（編集）保存する。
- ・ 採択後の開始年度から終了年度の最大3ヶ年分を保存する。
- ・ 実施初年度（開始年度）を中間評価1、2年度を中間評価2、3年度（終了年度）を最終評価とする。

【ページイメージ（案）】

・事業評価のデータ項目

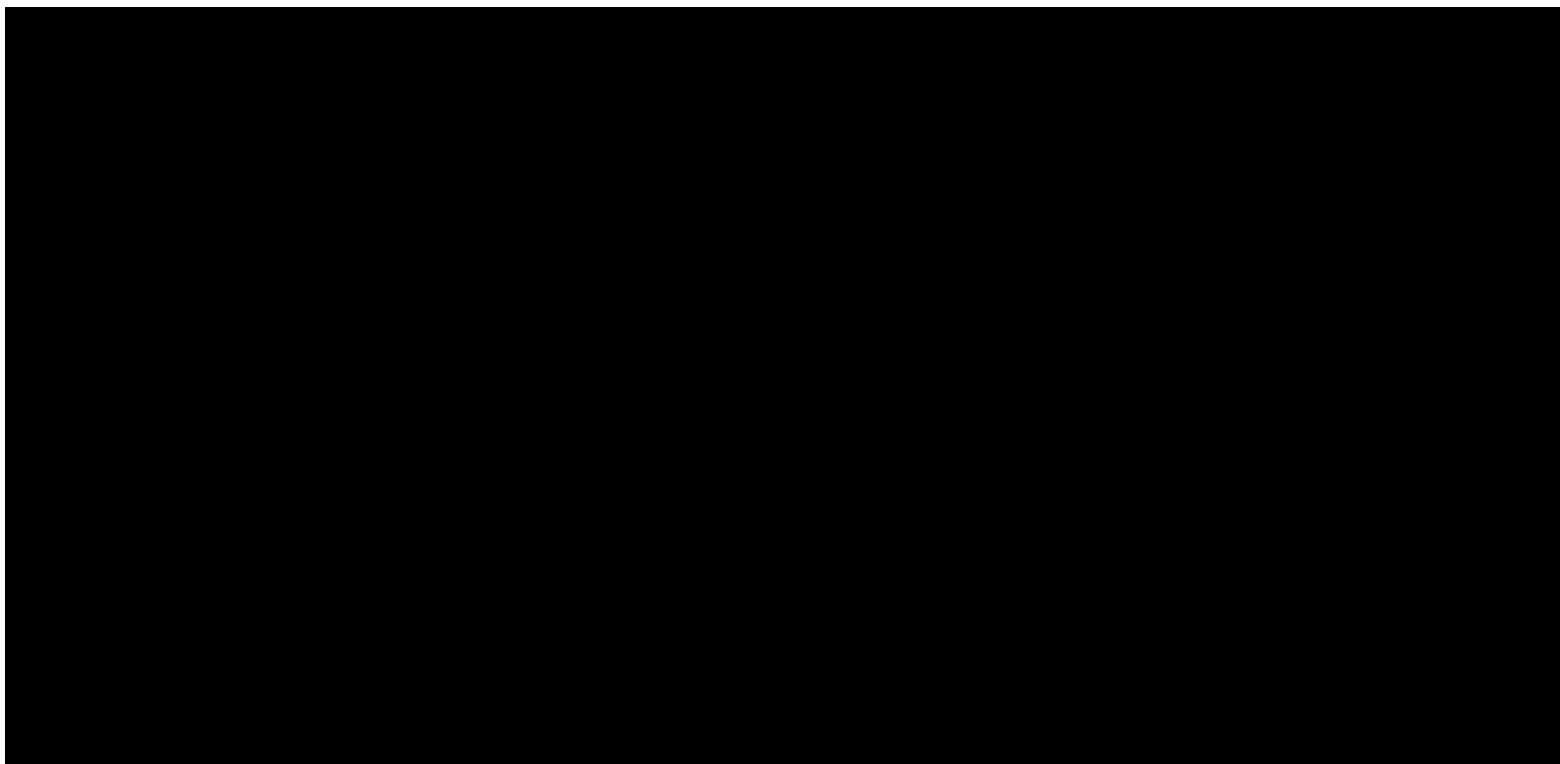
項目				
受付番号				
開始年後				
終了年度				
事業計画名				
事業管理機関名				
中間評価 1	継続の妥当性			
	< 1 > 計画履行 状況評価軸 (4 0 点)	1) 当初の事業 計画履行状況 (2 0 点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点	
		2) 目標達成度 (2 0 点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点	
		< 2 > 実施体制・ 情勢変化対応 に関する評価軸 (4 0 点)	1) 研究開発 実施体制 (2 0 点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点
			2) 情勢変化等の 把握・対応 (2 0 点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点
			< 3 > 次年度以降の 事業内容等の妥当性 に関する評価軸 (2 0 点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点
	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点			
	中間評価 状況調査 項目	特許等出願件数 特許等登録件数 特許等実施件数 ライセンス供与数 ライセンス収入(円) 論文数(件) 被引用度数(件)		
	総合評価コメント			

項目	継続の妥当性			
中間 評価 2	< 1 > 計画履行 状況評価軸 (40点)	1) 当初の事業 計画履行状況 (20点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点	
		2) 目標達成度 (20点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点	
		< 2 > 実施体制・ 情勢変化対応 に関する評価軸 (40点)	1) 研究開発 実施体制 (20点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点
			2) 情勢変化等の 把握・対応 (20点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点
			< 3 > 次年度以降の 事業内容等の妥当性 に関する評価軸 (20点)	事業管理機関記入欄 評価委員記入欄 経済産業局記入欄 採点
				中間評価 状況調査 項目
	特許等出願件数			
	特許等登録件数			
	特許等実施件数			
	ライセンス供与数			
	ライセンス収入(円)			
	論文数(件)			
	被引用度数(件)			
	総合評価コメント			

項目			
最終 評価	< 1 > 研究開発に 関する評価軸 (60点)	1) 計画履行状況 (30点)	事業管理機関記入欄
			評価委員記入欄
			経済産業局記入欄
			採点
	2) 開発における 課題と対処方法 (30点)	事業管理機関記入欄	
		評価委員記入欄	
		経済産業局記入欄	
		採点	
	< 2 > 事業化に 関する評価軸 (40点)	1) 事業化の 進捗度 (15点)	事業管理機関記入欄
			評価委員記入欄
			経済産業局記入欄
			採点
	2) 事業化における 課題と対処方法 (25点)	事業管理機関記入欄	
		評価委員記入欄	
		経済産業局記入欄	
		採点	
総合評価コメント			

<①－5 事業化状況調査管理>

- ・ 補助事業者から補助事業完了後5年間、毎会計年度終了後に事業化状況報告される報告データを報告（年度毎）別に登録（編集）、保存する。
- ・ 終了後の事業実績1年目を報告1として、報告5まで計5ヶ年分を保存する。
- ・ 事業情報、機関名はプロジェクト管理から自動で取得する。



【ページイメージ（案）】

・事業化状況調査のデータ項目

項目			
受付番号			
開始年後			
終了年度			
事業計画名			
機 関 別 経 費	機 関 1	機関名	
		確定額	
		補助事業に要した経費	
		補助対象経費	
	：		
	機 関 n	機関名	
		確定額	
		補助事業に要した経費	
		補助対象経費	
	合 計	確定額	
補助事業に要した経費			
補助対象経費			
報 告 1	機 関 1	報告年月日	
		補助事業の実施結果の事業化	
		知的財産権の譲渡又は実施権の設定	
		その他の補助事業の実施結果の他への供与	
		補助金確定額	
		補助事業に係る本年度売上額	
		補助事業に係る本年度収益額	
		控除額	
		本年度までの補助事業に係る支出額	
		基準納付額	
		前年度までの補助事業に係る国への累積納付額	
		本年度納付額	
		：	

項目		
機 関 n	機 関 n	報告年月日
		補助事業の実施結果の事業化
		知的財産権の譲渡又は実施権の設定
		その他の補助事業の実施結果の他への供与
		補助金確定額
		補助事業に係る本年度売上額
		補助事業に係る本年度収益額
		控除額
		本年度までの補助事業に係る支出額
		基準納付額
		前年度までの補助事業に係る国への累積納付額
		本年度納付額
：		
報 告 5	機 関 1	報告年月日
		補助事業の実施結果の事業化
		：
		本年度納付額
：		
機 関 n	機 関 n	報告年月日
		補助事業の実施結果の事業化
		：
		本年度納付額

<①－ 6 フォローアップ調査管理>

- ・ 補助事業者から事業完了後 8 年間、毎会計年度終了後にフォローアップ調査報告される報告データを報告（年度毎）別に登録（編集）、保存する。
- ・ 入力 は 事業管理機関向け、研究等実施機関向けに分かれ、各機関毎の提出回分となる。
- ・ 終了後の事業実績 1 年目を提出 1 回目として、提出 8 回まで計 8 ヶ年分を保存する。
（＋ボタンで追加作成）
- ・ 2 回目以降の登録を行う際は、初期値として前回の登録内容を表示する。
（前回と変化のない項目の再入力の手間を省くため）
- ・ 受付番号、計画名等は、プロジェクト基本情報で登録した内容を自動で表示する。

・フォローアップ調査（事業管理機関）のデータ項目

項目	
受付番号	
事業採択年度	
事業終了年度	
計画名	
提出事業管理機関	基本 本プロジェクトにおける法認定中小企業の日本標準産業分類（小分類：数字3桁）
1	技術分野
1	課題・ニーズ
	高度化目標
	主たる研究実施場所
	再委託先名、間接補助先名①（法認定事業者）
	再委託先名、間接補助先名②
	事業管理機関名称
	法人番号
	事業管理機関HP（URL）
	回答者氏名
	回答者担当部署
	連絡先
	① TEL
	② FAX
	③ Email
	研究開発計画の概要
	研究開発費
	確定額
	(千円)
	1年目
	2年目
	3年目
研究開発達成度	研究開発の達成度
	達成に向けての課題、達成できない理由
	事業化の進捗度
	①事業化の進捗状況
	②事業化に至っていない
	場合はその理由
	③現在までの取組概要
	(1)外的要因
	(2)内的要因
今年度の取組予定	
この事業の研究開発成果が効果を及ぼす産業分野	
事業化状況	研究開発成果を利用した売上状況
	全体状況
	直近年度の売上額（全体）（円）
	累計売上額（全体）（円）
当該加工製品の売上額	直近年度の売上額（全体）（円）
	累計売上額（全体）（円）
事業化に至っていない要因	1つ目
	2つ目
	3つ目
事業管理機関としてその要因を取り除くために何かサポートを予定している事項	
事業終了後、事業化に向けて必要とする支援策として重視するもの	①金融支援
	②販路開拓支援
	③その他支援
	④その他
選ばれた支援策について相談	
調査時点までに、この事業に関係した企業	
意見・要望	

項目	
事業管理機関	基本 本プロジェクトにおける法認定中小企業の日本標準産業分類（小分類：数字3桁）
n	技術分野
1	研究開発費
1	確定額
1	(千円)
1	1年目
1	2年目
1	3年目
その他	事業化に至っていない要因
	1つ目
	2つ目
	3つ目
	意見・要望
事業管理機関	基本 本プロジェクトにおける法認定中小企業の日本標準産業分類（小分類：数字3桁）
5	技術分野
1	研究開発費
1	確定額
1	(千円)
1	1年目
1	2年目
1	3年目
その他	事業化に至っていない要因
	1つ目
	2つ目
	3つ目
	意見・要望
事業管理機関	基本 本プロジェクトにおける法認定中小企業の日本標準産業分類（小分類：数字3桁）
n	技術分野
1	研究開発費
1	確定額
1	(千円)
1	1年目
1	2年目
1	3年目
その他	事業化に至っていない要因
	1つ目
	2つ目
	3つ目
	意見・要望

・フォローアップ調査（研究実施機関）のデータ項目

項目	研究実施機関	
受付番号		
事業採択年度		
事業終了年度		
計画名		
基本情報	研究実施機関名称 本プロジェクトにおける法認定中小企業の日本標準産業分類（小分類：数字3桁） 法人番号 回答者氏名 回答者担当部署 連絡先 ① TEL ② FAX ③ Email	
提出	計画名	
1	設備等投資額	
研究実施機関	事業化状況	研究開発追加投資額（円）
	事業化の概況	①事業化評価
		②事業化開始時期
		③川下企業等からの引き合い数（件）
		④自らアプローチした川下企業数（件）
	⑤製品・部品等	売上額
		直近年度
		累計額
		直近年度
	⑥ライセンス等	売上額
直近年度		
累計額		
直近年度		
⑦加工等請負	売上額	
	直近年度	
	累計額	
	直近年度	
⑧当該加工製品の発注での売上額	売上額	
	直近年度	
	累計額	
	直近年度	
企業売上高	企業の直近年度の売上額（円）	
加	企業売上高に対するこの事業の貢献度（％）	
取	①特許等出願数（件）	
得	②特許等登録数（件）	
状	③特許等実施数（件）	
況	④ライセンス供与数（件）	
レ	⑤ライセンス収入（円）	
ス	⑥論文数（件）	
ブ	⑦被引用数（件）	
レ	⑧学会発表数（件）	
ス	⑨新聞発表数（件）	
表	⑩TV発表数（件）	
等	⑪一般雑誌発表数（件）	
係	⑫業界専門誌発表数（件）	
	⑬展示会等への出展数（件）	
	⑭新聞、TV、一般雑誌、業界専門誌に発表されたことによる具体的効果	

項目	研究実施機関	
その他	事業終了後の状況 ①この事業終了後、引き続き行 研究開発又は成果の事業化に携 ②兼任者の補充研究又は事業化への寄与率 事業終了後の波及効果 ①研究開発成果が当初想定して ②研究開発レベルの向上 ③雇用の創出 ④研究開発人材の育成 ⑤組織内の活性化 ⑥異業種との交流、人脈構築等 ⑦銀行・金融業に対する信用度 ⑧企業認知度・知名度の向上 ⑨その他波及効果等について	
アンケート	事業化に至っていない要因	1つ目 2つ目 3つ目 その他
	その要因を取り除く考え	
	事業終了後、事業化に向けて必要とする支援策として重視するもの	①金融支援 ②販路開拓支援 ③その他支援 ④その他
	選ばれた支援策について相談内容	
	サポインの事業化をするにあたって本貸付制度の必要意見	
	事業化に向けて困難や①国・地方公共団体	管轄の経済産業局チェック 名称 都道府県商工関係部署チェック 名称 市町村商工関係部署チェック 名称
	②公的支援機関	商工会、商工会議所チェック 名称 中小企業基盤整備機構チェック 名称
	③その他支援機関	その他チェック 名称
	調査時点までにこの事業に関係した企業	
	ご意見・ご要望など	
提出	研究実施機関	
5	基本情報 本プロジェクトにおける法認定中小企業の日本標準産業分類（小分類：数字3桁） 計画名 事業化に至っていない要因 1つ目 2つ目 3つ目 その他 ご意見・ご要望など	

<②サポイン事業データ出力>

- ・ サポイン案件管理システムに登録したデータを、
選択した条件（出力条件、出力項目）により抽出し、
CSVに出力する。
- ・ 抽出する情報はテンプレートとして保存し、
繰り返し使用できるようにする。
作成済みのテンプレートを選択後、抽出情報を必要に
応じて編集し、抽出を実行できるようにする。
- ・ 出力条件は下記より選択
 - － 採択年度（年度選択）
 - － エリア（ログインユーザが経済産業局の場合は
各経済産業局の管轄を固定）
 - － 都道府県（都道府県選択）
 - － 状況（申請中／採択／不採択）

【ページイメージ（案）】

- ・出力項目の選択について、
 - －項目を上中下位階層に分け、表示非表示を切替（ツリー形式、アコーディオン形式等）する
 - －上位項目チェック有無で、下位項目のチェック有無をコントロールする
 - －項目のCSV出力可否は各項目のチェック有無により判定する
- ・CSV出力について、1事業（プロジェクト）に対し、各情報別の報告データ毎に複数機関が存在するが、出力結果は1事業1レコードで構成する。

（列情報を、各情報の報告データ毎機関別（①～⑳の固定長イメージ）に列挙）

CSVレコードレイアウト

A	B	C	D	E	F	G
---	---	---	---	---	---	---

<上位項目>

- | | |
|------------------|-----------------|
| A) 事業情報群（必須項目） | E) 事業評価情報群 |
| B) プロジェクト基本情報群 | F) 事業化状況調査情報群 |
| C) 審査情報群 | G) フォローアップ調査情報群 |
| D) 採択～事業終了までの情報群 | |

・CSV出力項目の選択

A) 事業情報群（必須項目）

B) プロジェクト基本情報群

A) 必須					B) 基本情報																							
担当局	受付番号	事業採択年度	事業終了年度	計画名	プロジェクトの基本情報	プロジェクトの詳細	実用化・事業化の状況					実施体制					事業者	参考情報										
					対象となる産業分野	産業分野でのニーズ対応	キーワード	事業化状況	事業実施年度	事業概要	開発した技術のポイント	具体的な成果	知財出願や広報活動等の状況	研究開発成果の利用シーン	提携可能な製品・サービス内容	製品・サービスのPRポイント	今後の実用化・事業化の見通し	実用化・事業化に向けた提携や連携の希望	事業者	事業管理機関①	..	事業管理機関②⑩	研究等実施機関①	..	研究等実施機関②⑩	アドバイザ機関①	..	アドバイザ機関②⑩

- ・CSV出力項目の選択

C) 審査情報群

C) 審査情報																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
特定研究開発等の要約	主たる技術	従たる技術	利用技術	研究開発成果の活用を想定している川下分野	主たる研究開発等の実施場所	初年度後部申請額（円）	事業管理機関	研究等実施機関	研究等実施機関①	..	研究等実施機関②⑩	..	アドバイザ機関①	アドバイザ機関②⑩	種別	マーケットアドバイザ	アドバイザ機関名	評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
																		事業面評価	技術面評価	政策点	アドバイザ機関②⑩	経産局点	技術面評価点数①	技術面評価点数②	技術面評価点数③	技術面評価点数④	事業面評価点数①	事業面評価点数②																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
							事業管理機関名称	連名代表名	法人番号	本社住所	都道府県	資本金	万円	設立・創業年	従業員数	属性	研究等実施機関名称	法人番号	本社住所	都道府県	資本金	設立・創業年	従業員数	属性																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

・ C S V 出力項目の選択

D) 採択～事業終了までの情報群

D) 採択～事業終了情報																																																
採 択 事 業 機 関		初年度																				2年度				3年度																						
		事業 機 関 名	法 人 番 号	大 学 等 種 別	住 所	担 当 者 名 ・ 役 職	担 当 者 メ ー ル ア ド レ ス	交 付 決 定 日	変 更 承 認 日	実 績 報 告 日	完 了 届 日	確 定 日	確 定 検 査 日	支 払 日	精 算 払 請 求 日	採 択 額 合 計	交 付 決 定 額 合 計	変 更 交 付 決 定 額	確 定 額 合 計	執 行 率	う ち 間 接 経 費 合 計	不 用 費 合 計	機 関 1	機 関 名	法 人 番 号	大 学 等 種 別	住 所	担 当 者 名 ・ 役 職	担 当 者 メ ー ル ア ド レ ス	採 択 額	交 付 決 定 額	変 更 交 付 決 定 額	確 定 額	執 行 率	う ち 間 接 経 費	不 用 費	..	機 関 n	交 付 決 定 日	..	不 用 費 合 計	機 関 1	..	機 関 n	交 付 決 定 日	..	不 用 費 合 計	機 関 1

I. 今後の情報管理のあり方検討（サポイン案件管理システム）

- E) 事業評価情報群

40

・CSV出力項目の選択

F) 事業化状況調査情報群

F) 事業化状況調査情報																			
報告 1										報告 5									
機関 ①										..	機関 ②⑩	機関 ①	..	機関 ②⑩					
機関名	法人番号	確定額	補助事業に要した経費	補助対象経費	報告年月日	補助事業の実施結果の事業化	知的財産権の譲渡又は実施権の設定	その他の補助事業の実施結果の他への供与	補助金確定額	補助事業に係る本年度売上額	補助事業に係る本年度収益額	控除額	本年度までの補助事業に係る支出額	基準納付額	前年度までの補助事業に係る国への累積納付額	本年度納付額	..	..	..

- G) フォローアップ調査情報群

42

（１）令和元年度に終了した１１５件のサポインプロジェクト情報データの作成

①調査票の見直し

- ・ 昨年、使用した調査票の下記箇所を改修しました。
- ー 各項目の並び順変更（サポインマッチナビと同じ並び順）
- ー アンケート概要の文章変更（掲載先や記入方法の案内を記載）
- ー 事例ナビ（ミラサポ plus）の記事作成において必要となる項目を追加
- ー その他協議の上、追加することとなった項目の反映

②事前の調査票（一案）の作成

- ・ 調査票の作成を依頼する前に、成果報告書の内容を元に予め調査票に一案を作成しました。

③調査票の送付・提出依頼

- ・ 各プロジェクトの事業管理機関宛てに調査票をメールで送付後、電話で提出依頼を行いました。
期日までに提出のなかったプロジェクトに対して提出の催促を電話で行いました。
- ・ 依頼の結果、１１４件の調査票を改修、掲載辞退が１件ございました。

※対象のプロジェクト一覧は次ページ以降をご覧ください。

④本番サイトへの反映

- ・ 回収した調査票の内容をテストサイトに登録し、本番サイトに反映するページデータを作成しました。
- ・ テストサイトから本番サイト更新用のデータを抽出し、本番サイトへのデータ更新手順書と共に提供、本番サイトへの反映を中小企業庁様に依頼致しました。

< 調査対象プロジェクト一覧 >

	採択年度	終了年度	計画名
1	平成29年度	令和元年度	表面テクスチャリングによる環境負荷低減型熱交換器用プレートの開発
2	平成29年度	令和元年度	マイクロ波による食品混入異物の検出装置及び異物除去装置の研究開発
3	平成30年度	令和元年度	スマートフォン向けバックライト用超薄型一体化精密フィルムの量産技術の開発
4	平成29年度	令和元年度	次世代自動車部材加工のコスト低減化、高精度化を可能にするハイブリッド砥石の研究開発
5	平成29年度	令和元年度	金属蒸気触媒 CVD 技術を用いたミニマルファブ用絶縁基板上グラフェン直接合成装置の開発
6	平成29年度	令和元年度	消化器内視鏡手術における早期がんを切除するための切断性能が高く、高レスポンスの動力伝達性能を有する高周波を使わないはさみの開発
7	平成29年度	令和元年度	タブレット逐次鍛造法を用いた低価格な防水型 USB Type-C コネクターと振子ダイス式逐次鍛造成形機の開発
8	平成29年度	令和元年度	金型チューニングに関する熟達者知見の AI 化による機差・環境差推定の研究開発
9	平成29年度	令和元年度	生きた細胞内へ導入可能な細胞膜透過性 VHH 型抗体の開発・実用化
10	平成29年度	令和元年度	5 軸マシニングセンタによる航空機用高機能ストレートベベルギヤの特殊歯面調整加工の開発
11	平成29年度	令和元年度	空中映像を結像する光学素子の性能改善と生産性向上に関する研究開発
12	平成29年度	令和元年度	高荷重下摺動部品に適用可能な優れた潤滑性と耐摩耗性を発揮する機能性粒子担持融合めっき技術の開発
13	平成29年度	令和元年度	革新的アルミ冷間鍛造用表面処理としてフッ素フリーの粘土工法潤滑表面処理技術の開発
14	平成29年度	令和元年度	ポリアセタール樹脂によるコアシェル型二重構造糸を用いた高機能不織布の開発
15	平成29年度	令和元年度	量子効果を利用した蛍光スペクトル解析によるナノ粒子分散凝集定量測定装置の開発
16	平成30年度	令和元年度	座らせきり介護ゼロを目指す自立支援型転倒防止ロボット歩行車の研究開発
17	平成29年度	令和元年度	超高压クーラント噴射機構を装備した医療用難削部材加工用小型精密工作機械の開発
18	平成29年度	令和元年度	インフレクターの工法転換を実現させる高強度鋼板による超深絞り成形加工技術の構築
19	平成29年度	令和元年度	マルチマテリアルによる E V 用電池ボックスのハイブリッド型プレス量産技術の研究開発
20	平成29年度	令和元年度	車載・屋外フレキシブル有機 EL パネル用大型・高強度ケミカル加工と封止構造の開発
21	平成29年度	令和元年度	積雪寒冷地域の交通弱者移動支援のための雪道走行を可能とする自動運転技術の開発
22	平成29年度	令和元年度	自律的自動運転の実現を支える人工知能搭載システムの安全性立証技術の研究開発
23	平成29年度	令和元年度	網羅的遺伝子解析技術を利用した細胞治療用間葉系幹細胞集積・採取技術および再生誘導医薬評価系の開発
24	平成29年度	令和元年度	半導体基礎技術とバイオ基礎技術を応用し、生活習慣病（成人病）を未然予防するためのネットワーク型ポータブル血液検査キットの試作・開発
25	平成30年度	令和元年度	前立腺がん骨転移の診断キットの研究開発
26	平成29年度	令和元年度	光を用いた非侵襲的な乳酸測定装置の開発
27	平成29年度	令和元年度	高伝達特性・低コストを目指した、海中自立発電向け新型 IPM 式磁気ギアの研究開発
28	平成29年度	令和元年度	IoT 活用によるスマート金型と射出成形機とを連動させた最適成形条件の研究開発
29	平成29年度	令和元年度	次世代燃料電池用酸化ルテニウムナノシート作製の高効率化・迅速化による生産技術開発
30	平成30年度	令和元年度	新機能 PVD コーティング皮膜の工具への高度化処理技術と水素バリア機能膜の技術開発
31	平成30年度	令和元年度	生食用カキ類のノーワークウィルス積極的失活化による浄化技術の研究開発
32	平成29年度	令和元年度	石油・天然ガス海洋開発プラント向け超大型複雑形状粉末焼結部品の HIP-NN 工法の開発
33	平成29年度	令和元年度	セルロース系繊維を用いた飼料用ラップネットの利用技術の開発
34	平成29年度	令和元年度	自動車摺動部品の低摩擦化と生産性を両立する精密加工装置の開発
35	平成29年度	令和元年度	大型薄肉ダイカスト金型向けナノカーボン表面処理技術の開発
36	平成30年度	令和元年度	世界初、皮膚表面・内部同時観察可能とするダーモスコプ用プリズムの開発
37	平成30年度	令和元年度	自動車産業に革新的生産効率を提供するロングサイズ FPC 向け直描装置の開発
38	平成30年度	令和元年度	第4のがん治療法、免疫チェックポイント阻害剤適応・適量決定システムの高度化
39	平成29年度	令和元年度	画像認識を用いた高効率な自律走行無人草刈りロボットの研究開発
40	平成29年度	令和元年度	ジェット粉末の高品位・高効率成形技術の研究開発

掲載辞退

41	平成29年度	令和元年度	オンサイトがん検査を実現するがん細胞の選択的捕捉が可能な動的変形マイクロフィルターの開発
42	平成29年度	令和元年度	ドライ・ウェット複合めっきプロセスによる I o T 制御用小型 R F I D タグの開発
43	平成29年度	令和元年度	銅ナノ粒子ペーストを用いた大型ガラス基板への高精度スクリーン印刷と多面取り加工技術を用いた次世代パワー半導体用実装基板の新製造技術の開発
44	平成29年度	令和元年度	鑄造し無チル化を可能にする金型球状黒鉛鑄鉄鑄物の大量生産技術の研究開発
45	平成30年度	令和元年度	精密水流制御と画像処理技術を統合した農産物運搬用車輛洗浄装置の開発
46	平成29年度	令和元年度	大型で積層構成自由度の高い C F R T P ー方向連続繊維積層板の量産技術開発
47	平成30年度	令和元年度	脂質代謝研究素材として高脂質代謝機能と高利便性を備えるヒト肝細胞の開発
48	平成29年度	令和元年度	転移性骨腫瘍患者向けカスタムメイド人工骨幹製造技術の確立
49	平成29年度	令和元年度	特殊側面発光糸を製織できるジャカード織物製造システム、および癒しと安全の機能を提供可能な次世代自動車内装材用織物の研究開発
50	平成29年度	令和元年度	水素社会実現に向けた、高品質かつ合理的な高圧水素溶接一体構造部品製造技術の研究開発
51	平成29年度	令和元年度	新規冷却シートを使用した太陽光発電パネルの冷却技術の開発
52	平成29年度	令和元年度	自動車用板金プレス部品のノンバラメトリック形状最適化とトポロジー最適化を組合せた軽量化技術の研究開発
53	平成29年度	令和元年度	大幅な C O 2 低減を実現する世界初バイオマス由来の蓄熱材の開発
54	平成29年度	令和元年度	次世代の環境規制を見据えたコバルト・クロムフリー黒色顔料の開発
55	平成29年度	令和元年度	E V / P H V 車向け放熱材料に活用する窒化ホウ素（B N）ナノレベル分散スラリーの量産技術及び品質検査技術の開発
56	平成29年度	令和元年度	高齢者の虚弱（フレイル）の予防・改善によって健康寿命延伸に寄与する機能性多糖類とそれを用いた食品原料の開発
57	平成29年度	令和元年度	高精度な人間センシングを低コストで実現するためのウェアラブル I o H センサの開発
58	平成29年度	令和元年度	低温高密度プラズマ改質技術を用いた赤外用レンズ量産製造用金型の開発
59	平成29年度	令和元年度	糖尿病性末梢神経障害の新たな診断方法を実現する「デジタル振動覚計」の開発
60	平成29年度	令和元年度	自動車用フルボディー3次元形状計測技術の開発
61	平成29年度	令和元年度	長寿命で優れた耐摩耗性・耐肌荒れ性等を有するφ100mm以上の圧延用大径ロールの開発
62	平成29年度	令和元年度	フラクタル構造加工技術及び新たな親水機能樹脂開発による超親水性医療用光学樹脂部品の研究開発
63	平成29年度	令和元年度	縫製及び洗濯耐久性に優れたスマートテキスタイル向けセンサー用並びに配線用導電性縫い糸の開発
64	平成29年度	令和元年度	立体・柔軟フィルムのバイオメディックスを応用した高精度フィルムインサート技術の研究開発
65	平成29年度	令和元年度	睡眠時無呼吸症候群治療用持続的気道陽圧ユニット（C P A P）の静音・長寿命・高追従性を実現するプロ・システムの研究開発
66	平成29年度	令和元年度	高吸放湿機能、高発熱機能を付与したポリエステル繊維を実現する新規な繊維加工技術の研究開発
67	平成29年度	令和元年度	焼結による高均熱、高熱輸送ヘバーチャンバーの開発
68	平成29年度	令和元年度	i P S 細胞等幹細胞の高効率な継代作業を実現した3次元大量継代培養自動化技術の実用化開発
69	平成29年度	令和元年度	溶射法を用いた新アモルファス合金水素分離膜の研究開発
70	平成29年度	令和元年度	医療器具の国産化に貢献する極小径超深孔加工技術及び加工内面の品質保証技術の開発
71	平成29年度	令和元年度	高効率航空機エンジン向け S i C / S i C 複合材料製造工法の開発
72	平成29年度	令和元年度	電気分解用導電性ダイヤモンドを高効率かつ安定品質で供給出来る革新的な成膜プロセスの開発
73	平成29年度	令和元年度	細胞集団分離機能及び蛍光と形態判断に基づき自動で高精度に細胞分離ができる機能を兼ね備えた安価な革新的装置の開発
74	平成29年度	令和元年度	次世代光通信インフラのための高周波特性評価用の110GHz帯高周波コネクタ測定基準器の開発
75	平成29年度	令和元年度	尿による認知症重症度が判断可能な検査キットの開発
76	平成29年度	令和元年度	高炉用回転式 P C バナーに使用するランスパイプの高耐熱・耐摩耗性を実現する世界初のアルミナ拡散表面処理技術の研究開発
77	平成29年度	令和元年度	燃料電池車向け超高純度水素を石油化学コンビナート由来の副生ガスから精製するためのバナジウム膜を用いた水素精製デバイスの開発
78	平成29年度	令和元年度	モータ積層コアの損失計測技術の高度化とシステム開発
79	平成29年度	令和元年度	難削材の高精度高能率切削加工を実現するハイブリッド工具の開発
80	平成29年度	令和元年度	潤滑性、耐久性に優れたメカニカルシール用部材の開発

81	平成30年度	令和元年度	ホログラフィック光学素子を活用した光沢面外観検査システムの研究開発
82	平成29年度	令和元年度	航空機用燃料非接触防漏型油量計システムの研究開発
83	平成29年度	令和元年度	青色LEDを用いた高効率シキミ酸新規製法の開発と実用化技術の開発
84	平成29年度	令和元年度	自動車用クリアランスソーナースなどのアルミニウム合金複雑形状品の高効率生産を実現する革新的精密インバクト成形技術の開発
85	平成30年度	令和元年度	ナビゲーションガイドと評価機能を付与し、自主学習を可能にする内視鏡用医療教育シミュレータロボットの開発
86	平成29年度	令和元年度	異種金属の通電拡散接合による自動車用エンジンバルブの量産技術の確立
87	平成29年度	令和元年度	CFRTPを用いた複雑形状部品の圧縮成形技術の開発
88	平成29年度	令和元年度	セルロースナノファイバー複合中間膜を用いた高耐衝撃性合わせガラスの開発
89	平成29年度	令和元年度	接着剤とプライマーとの複合化技術の開発により、高減衰免震装置の減衰機能向上及び大型化に不可欠な「高減衰ゴム-金属」間の高強度の接着を可能にする接着シート及び接着剤の開発
90	平成29年度	令和元年度	低潮解性難燃剤とその難燃剤均質注入・非破壊分布測定技術及び内装・外装に適する塗装技術による“全数・全部位防火材料基準”を満たす不燃木材の開発
91	平成30年度	令和元年度	スマートフォン用のバッテリー検査工程における品質と生産性を向上させ高度な判定を実現するマルチインプット型AIアルゴリズム検査システムの開発
92	平成29年度	令和元年度	HIPS対応可能なフレキシブルパルス電源システムの開発
93	平成29年度	令和元年度	フープめっき加工における材料投入の自動化を実現し、更なる生産性向上へ向けた連続材料供給装置の開発
94	平成29年度	令和元年度	リサイクル羽毛の生産コストを低減するための分離分別回収システムの技術開発
95	平成29年度	令和元年度	自動車のプラスチック窓などに高耐擦傷性機能などを付与する高硬度被覆膜材料、及び高硬度被覆膜形成技術の研究開発と実用化
96	平成29年度	令和元年度	機械保全に資する潤滑油オンサイト監視装置の開発
97	平成29年度	令和元年度	クライオ電子顕微鏡を用いたタンパク質単粒子解析法のための定膜厚試料自動作製装置の開発
98	平成29年度	令和元年度	人間工学に基づくデザイン設計と三次元積層造形技術で挑むカスタムメイド人工股関節の開発と事業化
99	平成29年度	令和元年度	ロボット摩擦重ね接合法（FLJ）による金属／CFRPの直接異材接合の製品化に向けた最適制御を伴う高機能ロボットFLJシステムの研究開発
100	平成29年度	令和元年度	めっきの多層化とグラフェン複合銀めっきによる大電流電気接点用めっきの開発
101	平成29年度	令和元年度	高性能窒化ホウ素膜のプラズマコーティング技術を用いた革新的切削工具と製造装置の開発
102	平成29年度	令和元年度	作業時間を1/2にする新型ドリルねじの研究開発
103	平成29年度	令和元年度	加熱しても膨れない・反らないIoT端末用低線膨張配線銅めっき液とコアレスプリント基板の電解めっき装置の開発
104	平成29年度	令和元年度	顕微鏡観察が可能な組織を透過した流れを発生させる灌流培養装置の研究開発
105	平成29年度	令和元年度	介護・ヘルスケア応用に向けた大面積シート型脈波センサの開発
106	平成30年度	令和元年度	グローバル対応型の多機能性ブレンド乳酸菌素材の革新的開発
107	平成29年度	令和元年度	術中計測デバイスと新医療データ群に基づく聴覚障害の診断・治療支援システムの開発
108	平成29年度	令和元年度	高性能有機TFETを実装した超大型サイネージ技術の開発
109	平成29年度	令和元年度	防縮性と抗びりng性をあわせもつワールによる縫い目のないインナー製品の開発
110	平成29年度	令和元年度	鉄道レールの溶接余盛（よもり）除去装置の開発
111	平成29年度	令和元年度	金属3Dプリンターを用いた複雑形状ダイカスト金型における加工技能データを活用した仕上げ工程及びその製造プロセスの構築
112	平成30年度	令和元年度	差圧を用いた無電源で吊るさず携帯性・操作性に優れ移動制限のないポータブル補液ポンプの開発
113	平成29年度	令和元年度	マイクログラフィディスプレイの低価格製造技術の研究開発
114	平成29年度	令和元年度	アルミ・銅バイメタル端子の製造に資する異形・異種金属の摩擦攪拌接合技術の開発
115	平成29年度	令和元年度	ホモグラフィ変換1ピッチ格子位相解析法を用いたインフラ劣化診断用全面ひずみ計測装置の研究開発

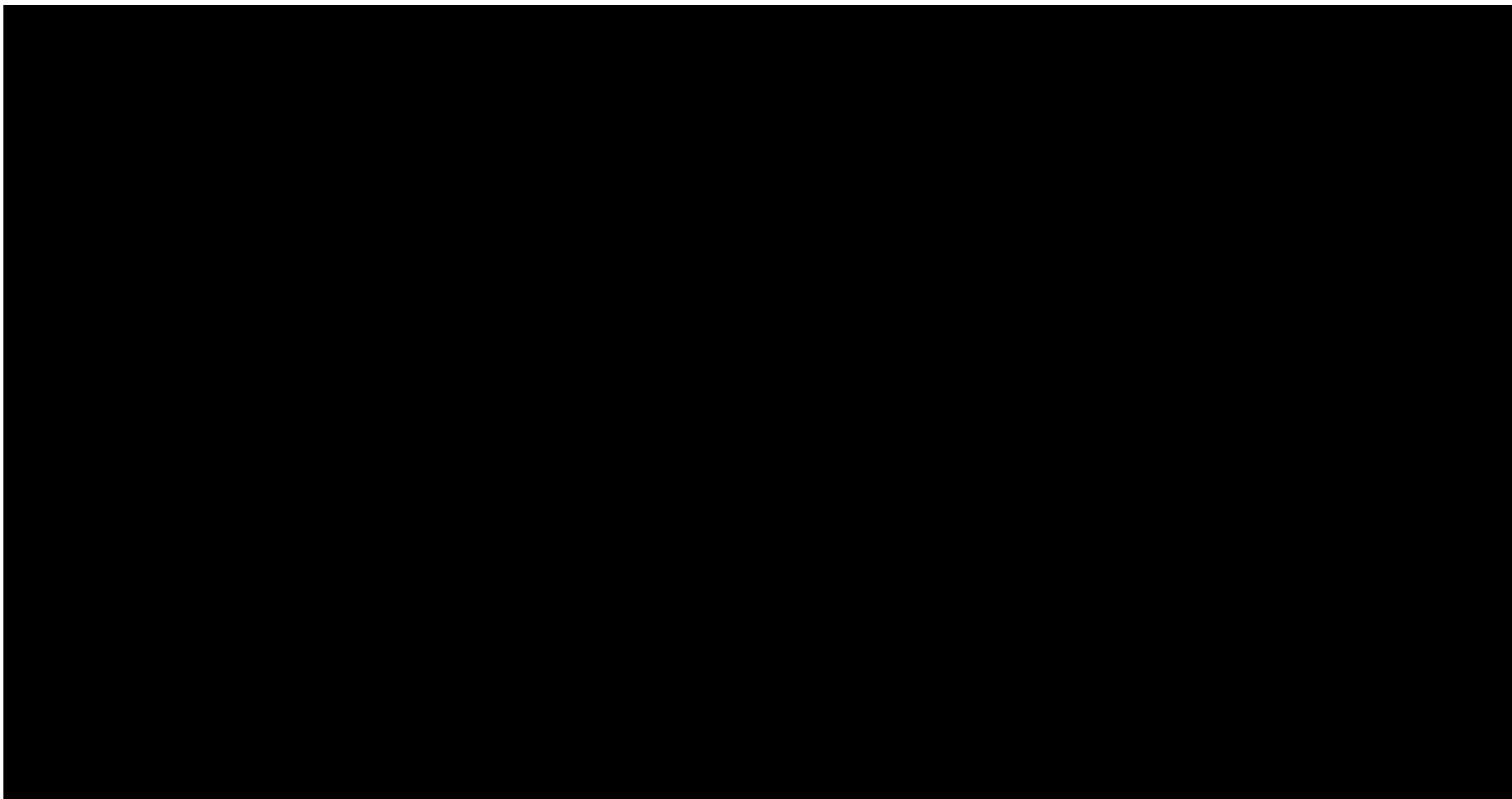
47

2 事業の実施内容 II. 令和元年度事業終了分の事例集（事例データ）の作成

（2）事例ナビ（ミラサポ plus）用データの作成

- ・事例ナビ登録用のCSVデータを作成し、登録用画像とともに提供しました。

<CSVフォーマットイメージ>



(3) 取材によるサポイン好事例記事の作成

①取材の実施

- ・ 下記プロジェクトを対象に取材を実施し、好事例記事を作成しました。
- ・ 各取材先企業と調整し、取材は現地もしくはリモートにて実施しました。

法認定事業者名	計画名	取材方法
株式会社アミンファーマ研究所(千葉県)	尿による認知症重症度が判断可能な検査キットの開発	12/11現地取材
北川精機株式会社(広島県)	大型で積層構成自由度の高いCFRTP方向連続繊維積層板の量産技術開発	12/15現地取材
株式会社北土開発(北海道)	精密水流制御と画像処理技術を統合した農産物運搬用車輻洗浄装置の開発	12/22現地取材
インスペック株式会社(秋田県)	自動車産業に革新的生産効率を提供するロングサイズFPC向け直指装置の開発	12/23現地取材
中島産業株式会社(岐阜県)	次世代の環境規制を見据えたコバルト・クロムフリー黒色顔料の開発	1/7現地取材
岡谷熱処理工業株式会社(長野県)	新機能PVDコーティング皮膜の工具への高度化処理技術と水素バリア機能膜の技術開発	1/7リモート取材
株式会社NSC(大阪府)	車載・屋外フレキシブル有機ELパネル用大型・高強度ケミカル加工と封止構造の開発	1/14現地取材
ダイテック株式会社(徳島県)	表面テクスチャリングによる環境負荷低減型熱交換器用プレートの開発	1/14現地取材
中島ゴム工業株式会社(福岡県)	接着剤とプライマーとの複合化技術の開発により、高減衰免震装置の減衰機能向上及び大型化に不可欠な「高減衰ゴム-金属」間の高強度の接着を可能にする接着シート及び接着剤の開発	1/19現地取材
大喜株式会社(福井県)	特殊側面発光糸を製織できるジャカード織物製造システム、および癒しと安全の機能を提供可能な次世代自動車内装材用織物の研究開発	1/20リモート取材

②本番サイトへの反映

- ・ 作成した原稿および撮影（もしくは提供）画像をテストサイトに登録し、本番サイトに反映するページデータを作成しました。
- ・ テストサイトから本番サイト更新用のデータを抽出し、本番サイトへのデータ更新手順書と共に提供、本番サイトへの反映を中小企業庁様に依頼致しました。

＜作成したページ例＞



トップ > [サバイン\(サバイン\)検索](#) > [FPC全で劇的に変わる自動車産業を予読み！ 投資家が注目する最先端シーンにレーザー直結露点計が関与](#)



インスベック株式会社
サポイン事業メンバー
(代表) 竹田 誠雄 執行役員社長 林 裕 寛 副社長 林 裕 寛

自動車産業の未来を変えるフレキシブル基板 (FPC)

今回の研究開発が始まった背景を教えてください。

[illegible]

※Connected: 3.5mmイヤホン、Automated: 自動化、Shaved: シェアリング、Electric: 電動化

FPCはすでにスマートフォンやパソコンなどに活用されていますが、なぜこれまで、自動車分野にはFPC製ハーネスが存在しなかったのですか。

既設のPPC向け露光装置は、エレクトロニクス製品向けに開発されたものである。露光装置はパソコンのマザーボード並みの600mm角程度。これを自動車向けに製造しようとする、必要とする長さ(3000~4000mm)に足りず、継ぎ目が発生

また、この20年間の日本の経済もまた、万が一暴落したと仮定した場合、人にもたぬほどの大被害を引き起こしてしまう。大きな課題となっている。また、情報化による価値観の衝突もまた、人にもたぬほどの大被害を引き起こしてしまう。この20年間の日本の経済もまた、万が一暴落したと仮定した場合、人にもたぬほどの大被害を引き起こしてしまう。また、情報化による価値観の衝突もまた、人にもたぬほどの大被害を引き起こしてしまう。

すでにある技術の融合から新しい価値が生まれることも

舞臺の原点はどのようなところにありましたか。

[illegible]

サポイン事業で製作した製品

開発前から最終的な製品の形を明確に描いておく

世界初の画期的な開発でありながら、スピーディに完了した理由を教えてください。

2018年にサボイン事業に参画し、2019年に片岡周平プロトタイプが完成。2か月後には、製造部の側面に着手し、約半年を経て初版のサボインの製造を完了させることができた。この流れは、非常にスムーズだったと思う。それは、最終的に製造のことが、一貫して理解があったからである。さらに当社製鋼の検査装置をベースマシンとしてほぼそのまま加工できたのも、関係する部署が少なくてすんだということがおかげである。



サイン事業の成長を製造化した図表

開業のパートナーとはどんなことを連携し、進めていきましたか。

[illegible]

サボインをうまく活用し、技術力を武器に市場に切り込もう

サポインを活用しようと考えている企業に向けてアドバイスをお願いします。

[illegible]

ちなみに、今回の騒動に関して、売れるという目算によって進めたというよりは、将来こういう時代が必要で、今から今に備えておこうという意図だった、という見解がかなり強固にあった。FIPバーナースは、実際にどこまで必要なのか、電機自動車の場合のにもなると、より進んだところからスタートして、まだ足りないところから、FIPの得意分野である、電機による動力源の備えから進め、燃費改善にまで進んでいくというのとは、意図はほぼ逆で、電機は必ず必要で唯一の道筋と見ていたようだ。電機自動車にだけ配備→燃費改善は必要としかねないのが見解としては正しい。そういうところは乗客の時も評価されたのではないだろうか。

今後の予定や将来への展望について教えてください。

FC向けロールシート型鋼骨造の鉄骨製はすでに導入しており、21年4月新製車利便は前年比1.8倍の1億7000万円と同様見通しにあり、今後も大幅増産を見込んでいる。そのうえで、今回完成した「ロールシート型スチールスレーザー製造機」は、空車乗車時には機体が5分間おち下がるなど、投資家方への期待の高い製品。早く早くと売れさせている状態。

コロナ禍で営業の機会を失っていたが、まずは、2021年1月20日～22日に東京ビッグサイトで開催される「第35回アジア・パシフィック」に参加する。今後も様々な機会を利用して需要に向けてアピールしていきたい。

サポイン技術情報

プロジェクト名: 自動車産業に革新性を促進するロングライフTPC向け市場調査の概要

● 本書の特色は、

(1) サポインマッチナビに登録済みのプロジェクトの事業化状況を更新

①更新対象プロジェクトの選定

- ・主たる研究等実施機関に対するフォローアップ調査の結果をもとに、事業化状況を更新する対象のプロジェクトを選定しました。(282件)

②本番サイトへの反映

- ・選定したプロジェクトの事業化状況をテストサイトにて更新し、本番サイトに反映するページデータを作成しました。
- ・テストサイトから本番サイト更新用のデータを抽出し、本番サイトへのデータ更新手順書と共に提供、本番サイトへの反映を中小企業庁様に依頼致しました。

※更新対象のプロジェクト一覧は下記のとおり。

	計画名	更新前の事業化状況	更新後の事業化状況 (フォローアップ調査の結果)
1	C F R P に対する切れ刃自己再研磨機能を備えた超音波切断技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に間近
2	車載LEDヘッドランプ用ヒートシンクの工法転換を実現する精密プレス鍛造複合加工技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
3	トリアジンチオールを用いたクロム不要樹脂装飾めっき技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
4	高機能竹繊維を使った低炭素型軽量化プラスチックコンポジットの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
5	標準コンダクタンスエレメントを用いた基準微小ガス流量導入装置の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
6	Ce:GAGGシンチレータ結晶における大型結晶製造プロセスの低コスト化	研究中止または停滞中	事業化に成功
7	新冷媒に対応する次世代自動車用熱交換器の高耐圧構造 及び量産技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
8	高い絶縁破壊電界強度を持ったナノ構造セラミックス成膜技術の研究開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
9	通電加熱型アルミモリス触媒を用いた有機ハイドライド脱水素大型反応器の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
10	電線欠陥検出用小型自走式X線検査装置の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
11	革新的軽量材料を用いた自動車用防振ゴムマウントの材料から鍛造までの一貫製造	研究中止または停滞中	事業化に成功
12	医療機器向け大流量・高圧・静音ポンプを適用した脈波測定機器の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
13	大腿骨近位部骨折患者の早期離床、寝たきり予防を実現するモジュラー型骨折治療システム及びその生体力学的親和性向上の	研究中止または停滞中	研究実施中
14	ゴムコア通電ポールを電気接触ピンとして利用した新方式半導体ソケット開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
15	血管炎バイオマーカー測定キットANCA-Fastの開発医販及び普及品開発	研究実施中	事業化に成功
16	高精度冷間圧延用工具の低歪み高速加工プロセスの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
17	積層セラミックスコンデンサーの高容量化を実現する内部電極用材料の製造技術の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
18	蓄熱・放熱機能付環境対応型塗壁材の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
19	高回転制御可能な高加減速クロード制御、軽量高生産性スピンドルシステムの開発	研究中止または停滞中	研究実施中
20	同時5軸制御 Additive Manufacturing (加法的製造) によるLight Weight Structure (軽量構造) の実現	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
21	次世代パワーデバイス用エナ加工工程を簡略化する超均一組織研削砥石の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
22	コンタクトプローブ耐久性向上のための表面処理及び微小部品用小ロットめっきシステムの開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
23	革新的省エネ型高品位リサイクル繊維連続回収システム	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
24	スマートフォン向けバックライト用超薄型一体化精密フィルムの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
25	新規なダイヤモンド接合技術を開発し、革新的機能と低価格を備えた C M P コンディショナの開発に適應する。	研究中止または停滞中	事業化に成功
26	自動車シート用インサート材の立体成形同時裁断技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中

27	希少細胞の選抜を実現する革新的な誘電泳動細胞分離システムの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
28	複合材バネのトリム作業自動化を目的としたトリムライン自動検出法の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
29	軽量化に対応した車載用アルミニウム合金-エンジニアリングプラスチック接合部材の開発と実用化	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
30	診断市場のPOC化に資する新規蛍光剤を用いた高感度POCT装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
31	航空機用薄肉部品の切削加工時に発生する工作物変形・ひび割れの抑制技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
32	大型車両の車輪脱落事故を防止する型式認定1軸締付機械（ナットランナ）の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
33	粘度が高い高熱伝導樹脂を用いた多機能一体化成形技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
34	溶接部応力制御技術開発による自動車サスペンション部品の軽量化	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
35	超微粉化及び糖化発酵による木質系高機能バイオマスフィラーの創製	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
36	生分解性樹脂製マイクロニードルアレイのディスプレイ型装着技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
37	超高分子量ポリエチレン繊維を用いた海洋構造物係留ロープの耐久性向上技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
38	SiCセラミックス大幅適用拡大のための新規2段反応焼結法（接合・精密加工技術）の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
39	大型特殊鋳物用モリスコック耐熱耐摩耗多合金鋳鉄材料の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
40	沿岸域の漁場管理を漁業者自ら行うための漁場情報速報システムの構築	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
41	内視鏡3D光プロブ式精密測定機の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
42	汎用電気ドリル向け小径吸塵コンクリートドリルビットの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
43	高出力ファイバレーザによる深層シーム溶接技術及び高耐圧圧力センサの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
44	マイクロ波励起プラズマを用いた低ダメージ薄膜形成用ミニマル装置の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
45	純銅を凌ぐりん青銅の最高抗菌性を効果的に発揮させるための薄膜化・表面加工技術の確立	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
46	色のバツキが少なく、視認性に優れた疲労低減特性のある自動車内装照明用LEDの蛍光体層開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
47	ニミル水プラズマアッシング装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
48	超高張力鋼板ロール成形技術高度化による自動車構造部品の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
49	焼結冷間鍛造工法及び表面処理による高強度・長寿命かつ耐摩耗性に優れた焼結部品の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
50	微細パターン基板に対応した真空差圧式レジスト剥離、エッチング装置の開発	研究実施中	事業化に成功
51	低温作動型SORC水蒸気電解セルとそれを用いた赤外線利用型ソーラー水素蓄電システムの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
52	話者の音声特性を改善する聴聴者聴こえ支援会話システムの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
53	微小血管吻合用ステントの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
54	高品位極微量塗布用ステンレスマイクロノズルの表面機能制御技術の研究・開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
55	高感度 高セキュリティ顔認証システムの開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に間近
56	電解レーザー微細複合加工技術の実用化による微細医療器部品の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
57	細く軽ノイズに強い電線のための超臨界発泡押出電線被覆装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
58	超高速信号用プリント基板の開発設計支援のためのシミュレーション解析技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に間近
59	車載センサー向け高性能コーティング膜 製造用スリッパ装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
60	コンボジット成形を高度化させた新たな工法開発の確立、多層構造プラスチックの素材開発及び用途開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
61	宇宙デブリ観測用望遠鏡及び地球観測衛星に用いられる大型光学素子の超精密研磨・計測技術の開発	研究実施中	事業化に成功
62	走行機能付次世代型5軸制御ロボット加工機の開発	実用化間近	事業化に成功
63	川下及び業界ニーズに対応する低コスト・高安全な圧倒的コンパクト鋳鉄製造法の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
64	高品質かつ低コストのペプチド・核酸医薬原体の製造を可能にする高性能二段階孔構造精製担体の汎用化のための技術開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
65	7000系アルミ合金製ライナーによる複合蓄圧器の充填効率とサイクル性能の向上	研究中止または停滞中	研究実施中
66	多機能性天然素材ソホロピッドの超分子形成技術による高純度ソホロピッドの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
67	高アスペクト比ステンレス薄肉、トランスファ高速・高効率温間絞り工法の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
68	炭素繊維/グラフェン複合電極の技術開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
69	ステンレス製小物精密部品の低コスト量産を実現する高度に温度管理された温間鍛造加工プロセスの実用化開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
70	業務用炊飯での使用油脂の大幅削減を可能とする米糖由来乳化素材を用いた炊飯油の実用化開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
71	CFRTP専用ファスナーを用いた自動車用CFRTPと異種材料の革新的接合技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
72	大型車に特化した危険予測可能な後側方障害物センサの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
73	微小立体構造からなるセンサーの試作開発期間短縮と多品種少量生産を可能とする、世界初の両面アライメント機能付きミクロン加工機	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
74	排水リサイクル時のアブリングを防止することで造水コストを削減することができるサブミクロンファイバーを使った水処理装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
75	レーザーダイオード及び、光学部材の高精度実装技術開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
76	業務車両オペレータの安心・安全な労働環境実現のための統合バイタル情報解析システムの研究開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
77	発酵ナノセルロース(NFBC)の効率の培養方法と分離精製技術の確立による量産化	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
78	ペーパ印刷法によるパワーモジュール回路基板形成方法の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
79	異種金属溶接技術とその実用スポット溶接機の研究開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
80	アセチレン添加によるガス浸炭法及び設備の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
81	次世代F P D生産用のオン添加帯圧CVDプロセスの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
82	高速成膜と密着性を両立した低コストDLC成膜技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
83	サーボプレスとCAEの高度利用により、中〜小ロット生産に対応したボンデアリーの分流冷間鍛造技術開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に間近
84	航空機用Ni基耐熱合金製リング部品のニアネットシェイプ加工技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
85	農林業のニーズに応える小型・低コストバイオマスガス化発電システムの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中

86	航空機複合材構造用高強度・高弾性率隙間埋め材の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
87	単一の測定装置による熱電3物性値の同時計測可能な方法の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
88	自動車衝突安全規制に適合するステアリングコラムの溶接技術開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
89	実車環境を模擬する電動車両用台上モータ駆動システム評価装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
90	高品質着光顔料の高効率大量合成プロセスの研究開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
91	二酸化炭素排出削減に貢献する超小型・軽量・高効率な電動ウォーターポンプの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
92	バイオ医薬品の経皮吸収を可能にする粘着テープ化技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
93	患者と医師双方の負担軽減のため、ワイヤレス給電技術を活用した「消化管内自走式カプセル内視鏡」の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
94	小型集積モジュール型電子部品の実装歩留まりを高め、生産性を向上させるための、高精度移載を実現するハンドラーシステムの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
95	紙おむつ焼却量の削減および処理料金低減を目的とした、紙おむつ由来プラスチックの脱塩素処理技術等による、紙おむつの完結	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
96	レーザーアブレーション技術を用いて生体組織の構造解析を高速かつ低価格で実現するナノレベル3次元構造解析システムの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
97	難燃性マグネシウム合金の機械加工による部品製造技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
98	火力発電装置の長寿命化実現に向けた新溶射システム・材料の研究開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
99	自動車用板金プレス部品のノンパラメトリック形状最適化とトポロジー最適化を組合せた軽量化技術の研究開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に間近
100	これからのIoTシステムの標準となるLoRa-BLEを活用したIoT通信システムの構築による超低消費電流で安価な長距離通信の実現	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
101	組織制御型高強度・高機能鍛造製自動車用部材の製造技術開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
102	高灰分ークークス使用時における高生産性操業技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
103	微細構造・高硬度金型の超精密微細加工技術と成形技術の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
104	無機連結材を用いた環境に優しい鋳造造型技術の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
105	多品種・小ロット生産に対応した多層ロー成形を効率的に行えるハイブリッド構造のダイヘッドの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
106	C F R P 部材（難切削材料）の切削加工を低コストで可能とする専用加工機械の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
107	銅管製造における回転式連続プレス加工法の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
108	発酵技術を利用した天然型糖質の新しい製造方法	研究中止または停滞中	研究実施中
109	軽量薄肉高強度中空断面部品の革新的複合加工技術の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
110	難燃性マグネシウム合金鍛造によるバウトレイン耐熱部材の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
111	外観検査用産業用ロボットを高度化する画像処理組込みソフトウェアの開発と事業化	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
112	多面電極実装技術を使った無指向性脳プローブ（Omnidirectional Microprobe）の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
113	三次元造形技術による極限疑似血管モデルの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
114	難めっき樹脂系材へのETCHングレスめっき技術及びその量産化技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
115	菌類バイオマス残渣からの高付加価値脂質とグルカンの回収	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
116	非磁性・超低温用の高強度オーステナイト球状黒鉛鍛造製品の製造技術開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
117	ステンレス鋼製高強度・高疲労強度極薄ベルトの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
118	金型成形プラスチックマイクロ流路型チップの加工精度向上による実用的なバイオアッセイシステムの開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
119	難加工材の高温板鍛造プレス加工における高機能金型の開発	実用化間近	事業化に成功
120	マイクロナノパブルによる環境対応型半導体ウエハ洗浄装置の開発	研究中止または停滞中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
121	アモルファス合金めっきによる燃料電池供給用水電解装置の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
122	超小型内視鏡部品製造のための知的ポスト処理システムによる高精度切削加工技術の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
123	色素増感太陽電池用色素の化学合成プロセスの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
124	超音波切削加工技術を用いた航空機機体用複合材穴あけ加工技術の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
125	直観的操作性と機能拡張性を有するロボット用組込みソフトウェアの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
126	静電容量式変位センサー及びそれを用いた測長タッチセンサーの開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
127	金属担持触媒製造のための新しいめっき技術および担持触媒ペースト	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
128	電動自転車、電動バイク用センサーレス・モータ・コントロール組込み込みソフトウェア開発	研究中止または停滞中	研究実施中
129	光MEMS技術を用いた独創的な構造の超小型・高精度・高速応答変位計測エコーダの実用化開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
130	高機能磁性微粒子を用いた高速・高効率酵素精製プロセスの開発	研究中止または停滞中	研究実施中
131	超微細成形技術によるシート型微小針アレイの開発	研究実施中	事業化に成功
132	拡散接合技術による微細構造物の接合技術信頼性の確立	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
133	忠実色再現手法による画像色管理システムの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
134	冷間プレス加工技術の高度化による超高強度鋼自動車部品の実用化製造技術の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
135	ナノカーボンを用いた耐熱性・放熱性に優れた熱可塑性樹脂の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
136	鋳造し高精度を有するアルミニウム合金ダイカスト鋳造品の生産技術の開発・確立	研究中止または停滞中	事業化に成功
137	航空機複合材新V a R T M 製工具の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
138	機械設備類の省力化・小型化を可能とする複動ダイヤセットを用いたバリなし鍛造による複雑形状部材の低コスト量産化技術の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
139	厚板・板鍛造のネットシェイプ成形を可能とするセラミックタイスによるドライ加工技術の確立	研究実施中	事業化に成功
140	ヒト代替バリ取りロボットの開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
141	高性能炭素繊維織物基材の高効率製織技術開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
142	液晶表示等フラットパネルディスプレイ用光学フィルムの高品位化および低環境負荷成型加工技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
143	薬物先端部搭載型新規マイクロニードルの開発とその育毛製剤への応用	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
144	組込みシステムにおける性能設計評価ツールの研究開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
145	150MHz帯業務用アナログ/デジタル共用無線機開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功

146	長寿命・微細PCD（コバルト焼結ダイヤモンド）金型部品の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
147	Blu-ray光ピックアップ用光学素子の耐光性蒸着膜の全面蒸着量産化技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
148	パワー半導体搭載モジュールの樹脂封止材真空加圧成形プロセスの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
149	天然由来物を粘結剤とした環境調和型工芸品とその製造方法の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
150	新規ナノガラス量子ドットによる多層マイクロ回路基板を用いたPOC免疫学的診断法の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
151	高張力銅板による防爆安全弁付大容量Liイオン2次電池缶の成形技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
152	糸への連続式電子線グラフト重合法による高耐久型高機能繊維の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に間近
153	半年以上の高接着性・塗装性を有する高分子フィルムの低コスト、製造に関する開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
154	無収縮セラミック多層基板用導電ペーストの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
155	ガラス代替特殊機能樹脂板材の外形成形切断加工技術の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
156	革新的燃料噴射技術を実現するための金属ガラスと結晶金属の複合化溶接技術の研究	研究中止または停滞中	研究実施中
157	意匠性に優れた硬質アルミ表皮形成技術の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
158	ユーザビリティ向上、低コスト化を実現するための革新的な3Dスキャニング技術の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
159	耐摩耗性・高韧性・溶接性を備えた建設機械用アタッチメント材料の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
160	変位機能を有する高耐久性スタントの開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
161	平成22年度予備費事業 戦略的基盤技術高度化支援事業（燃焼圧センサー用ランガサイト型圧電結晶の形状制御単結晶の開発）	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
162	リチウムイオン電池用高精度シャント抵抗器の超薄型アウトサート成形技術・生産技術の確立	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
163	紫外線照射による細菌とキョウ虫（卵）の検出と画像処理で可能とする組み込みソフトウェアの研究開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に間近
164	長期安定的な高速度加工が可能なハイパッド小径ドリルの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
165	視覚障害者用高耐久性カラー識別表示材料の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
166	航空機部材の耐摩耗性・耐食性を向上するHVOP溶射を用いた高効率なWC皮膜処理技術の確立	研究実施中	事業化に成功
167	航空機部品の薄肉軽量化及び、信頼性向上に対応した振動制御機能を有する高精度高能率加工技術の開発	研究実施中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
168	再生炭素繊維不織布の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
169	半導体TSV基板の平坦化技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
170	橋梁鋼構造物の施工現場における高力ボルト接合部への長期防錆金属溶射施工技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
171	窓材軽量化を目指すポリカーボネートへの強化ガラス密着強化熱処理技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
172	低コストなタンパク質の精製を実現するための装置開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
173	スーパーエンプラにおける超ハイサイクル・高品質な射出成形技術の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に間近
174	三次元LSIデバイス精密実装のための低ダメージ・ダメージレス複合ウエット加工プロセスと高品質・低コスト製造装置の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
175	ホットプレス法によりCFRP製三次元大型形状の高精度、高効率成形を可能とする、低熱歪み金型の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
176	難加工材の三次元形状を超精密に創成する丸プレート方式によるプレス金型製造技術の確立	研究実施中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
177	漸減層で使用可能な同期機能実装型バイオロギングデバイスの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
178	CAD/CAM技術に応用した歯科補綴物に適する生体用コバルト合金圧延材の製造技術の開発	研究中止または停滞中	事業化に成功
179	耐熱性に優れた共晶黒鉛鋳鉄による鑄ぐるみ技術の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
180	電子部品・デバイスの内部欠陥をその場で非接触探傷できる革新的レーザ超音波検査装置の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
181	高度順送プレス加工・トランスファー加工の応用によるアルミ薄板・複合一体化形状品 自動プレス加工技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
182	リチウムイオン電池の高効率・製造コスト削減を実現する超々高速・高品質リモーターザ容接ヘッドの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
183	「発酵食品等の高品質化と伝統技術継承のための味認識装置の評価技術開発」	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
184	超音波キャビテーションによる微細孔のバリ取り法の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
185	制御ソフトウェアの高度化による産業用超高安定度電圧標準装置の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
186	微細/ナノ形成用ナノパティクルデポジション装置および微細/ナノ接続応用技術の開発	研究実施中	事業化に成功
187	新規高熱伝導性複合材料を用いる環境に優しいLED放熱部品の研究開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
188	消失模型鋳造法によるアルミニウム合金の薄肉中空鋳造技術の研究とそれを用いた発泡樹脂生産技術の確立	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
189	単結晶ダイヤモンド製マイクロドリルの超精密研削・研磨技術とオンマシン計測技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
190	太陽光発電・次世代照明向け高密度ガラス用長寿命金型の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
191	高機能マイクロ水力発電装置に用いる高効率タービン（トルネードタービン）の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
192	高効率有機薄膜太陽電池のプリンタリ量産化基盤技術の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
193	低温域で鋳造する金型重力鋳造の革新的生産技術開発による高強度薄肉構造物の実現	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
194	締付法および締付後確認法の革新による航空機組立の低コスト・高信頼化用の工具開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
195	複合樹脂の含浸による新しい木材プラスチック化技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
196	加工最適化機能を有するCFRP（CFRTP）高精度加工システムの開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
197	発酵乳製品副産物ホーの機能成分を活用した高齢者用人工唾液の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
198	画像処理を用いた薬剤分包機用計測モジュールおよびカートリッジの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
199	織造技術を高度化した綿織維からの高効率バイオエタノール生産技術の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
200	自動隊列走行を実現するマルチホップ無線通信を用いた搬送システムの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
201	高機能竹繊維を使った低炭素型軽量強化プラスチックコンポジットの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
202	ミニマル3次元積層LSIデバイス製造ファブに対応したデバイス検査装置の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
203	新たな分離源処理法及び発酵培養法の開発による海洋性微生物・微細藻類からの効率的な新規創薬シード化合物探索法の開発	実用化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
204	微細貫通配線及びバンプ接合を使った次世代三次元LSIチップ製造技術の確立を目指した研究開発	実用化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている

事業の実施内容	事業の実施内容	事業の実施内容
205 医療用難削小物部品加工用高精度超小型ミリングセンタの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
206 ゴムコア通電ポールを応用した電気接点部材開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
207 光学・成形シミュレーション技術を利用した	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
208 バイオハザード対応・無菌・ダメージレス・マイクロ流路チップ・セルソーターの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
209 レアーストモータ制御のための実装研究開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
210 複合素材を用いた超軽量プラスチック中空体を実現する素材研究とコンボジット成形技術の確立	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
211 純度100%スズ製フリップル手術用具の実用化に向けたスズ金属の微細パイプ製造及び鋼材と一体化したインサート製造加工	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
212 独自1ヘッド同軸多重ノズルによる高品質製品作製のためのレーザ溶接技術開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
213 切れ味の持続性に優れた刃物表面処理技術開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
214 ナノレベルの超精密非球面形状からなる太陽電池用集光用フィルムの熱インプリント連続形状転写技術の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
215 並列画像処理技術による産業用高精細スキャン印刷マスク検査装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
216 光硬化プロセスによる通電性と密着性に優れた導電ペーストの開発と高密度・高精度かつ低コストな回路パターン形成技術開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
217 28Gビット/s 電気伝送における放射ノイズ防止と伝送距離延長を同時に実現する振幅補正機能付きコモニードフィルタの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
218 超耐熱プラスチックを連続積層成形するプレス装置の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
219 蓄電池充放電用の高精度直流電流センサーの研究開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
220 光通信デバイス一括実装のためのプラスチック成型基板の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
221 無垢単結晶ダイヤモンド複数刃切削工具の製造技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
222 E M C 対策を効率化する遠方電磁界の推測機能を搭載した事前検証システムの開発	研究実施中	事業化に成功
223 材料、プロセス、表面処理の三位一体ノバシオンによる次世代ヒートシンクの創製	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
224 「高速双ロール式縦型鋳造法による難加工性高機能薄板の革新的製造技術の確立」	研究中止または停滞中	研究実施中
225 ミニマル半導体装置共通プラットフォームの開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
226 ロボット搭載型高機能シーム溶接機の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
227 リチウムイオン電池用クールドの高精度せん断加工技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
228 超音波プレス加工を用いた医療機器の実用化	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
229 高機能・低コスト・軽量化のための高板厚ハイテン材プレス加工と溶接の高度化技術開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
230 低侵襲内視鏡および顕微鏡手術支援3D超音波診断装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
231 厚板高強度鋼板の精密プレス加工を実現する、自動寸法機能を具備するプレキシブル金型技術の研究開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
232 ナノ空間を利用した高リサイクル鋳物砂による無機系砂型鋳造技術の高度化	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
233 内部急冷凝固鋳造法による金属プレス金型材料の高強度化・高品質化技術の確立	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
234 高機能性・高感度を持たせる膨化系を使用した繊維物の研究開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
235 高機能・高感度な超極細繊維製品を省エネルギーで実現する副織・染色一体加工技術の開発	実用化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
236 植生等地上観察用垂直離着陸型小型無人飛行システムの簡易ソフトウェア開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
237 冷凍機用新冷媒〔H F O - 1 2 3 4 y f 〕及び〔H F C - 3 2〕対応、耐加水分解性に優れた複合化絶縁材料の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
238 木造建築物の大空間・大開口化ニーズに対応する耐震性向上および柱・梁のダメージを減少する高強度・高振動吸収締結ユニット	研究実施中	実用化に成功し事業化に間近
239 太陽光発電可能な次世代膜構造建築物を実現する発電デバイス技術の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
240 高密度高収束水を用いたフォーカジェット加工技術の高度化に関する研究開発	研究実施中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
241 グリーンプラスチックの超臨界二酸化炭素による連続発泡成形技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
242 無電力で発光する蓄光陶磁器の高輝度化を目指した釉薬塗装技術の高度化研究	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
243 粉末成形による金型製造とリサイクルに関する手法と材料の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
244 低温・短時間硬化（プリンテッド・エレクトロニクス用受容層材料）の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
245 環境対応車用中空シャフトの熱間中空鍛造と回転加工による複合成形技術の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
246 リチウムイオンキャパシタ（LIC）用孔開き集電体の量産を実現する革新的プレス加工技術の開発	実用化間近	事業化に成功
247 懸濁結晶法による凍結濃縮システムの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
248 L E D 製造工程の高効率化、低コスト化を目指す世界最高速（0.1秒/個）ダイアタッチ装置の開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
249 2.5次元シミュレーション技術を活用した、耐圧・薄肉製品製作用リングブローシジョン溶接の高度化技術開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
250 めっきプライマーインクと3D形状対応印刷技術による部分めっき技術の開発と自動車部品への応用	研究実施中	事業化に成功
251 高機能多結晶ダイヤモンド工具の高生産性・低コスト化技術を支援するための、大型焼結体製造技術と工具形状成形技術の開発	事業化に成功	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
252 低コスト・小規模投資で薄肉高強度を実現する革新的ダイカスト技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
253 生体組織の多層構造及び感触を再現した医療用模擬臓器とロボットハンドを実現する疑似生体ゲルとその多層成形技術の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
254 世界で最初的全複合材構造型・超軽量・衝撃吸収型の旅客機用座席の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
255 すばかき歯車の低騒音化を実現するバレル形ねじ状砥石を用いた低コスト・高効率連続創成研削技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
256 波長選択型高性能色素増感太陽電池の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
257 感染を防止し、骨再生を促進する革新的インプラントの開発	研究中止または停滞中	研究実施中
258 超小型電子光学系と異形小型高真空ポンプを内蔵した小型・低価格な測長用電子顕微鏡（CD-SEM）の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
259 ミニマルTVSめっき装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
260 新世代高速通信向け波長選択スイッチ用マトリクス型コリメータ実装技術の研究開発	実用化間近	事業化に成功
261 4.0 / 1.0 0 Gbps 光伝送受信器用キャビティ型ファイバレイの開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
262 無機ガラスに代替可能な透明ナノポリマーアロイの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
263 溶媒可溶ポリイミドを用いた有機 E L 用バリア構造の試作	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近

264	高度情報認識による異物混入医薬品の除外システムの開発	研究中止または停滞中	研究実施中
265	「φ0.1mmPCD（多結晶ダイヤモンド）小径ドリル製造ができる回転電極放電加工機の開発」	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
266	柔らかいワイヤーを使った低コスト・高性能な熱伝導シートの開発	研究実施中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
267	形状変更可能な複合材製構骨遠位端プレートの開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近
268	次世代超薄板ガラスの低コスト切断を実現するヒートナイフによる熱切断装置の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
269	車載用SiC及びGaN基板の実用化を目指すCARE法加工技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
270	超音波を用いた自動車用マフラー等気密容器漏れ検査装置の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功
271	溶融亜鉛めっきの代替が可能な複合酸化物を活用した高強度防錆塗料と工法の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
272	電子部品・デバイスの実装評価に必須な局所領域・空間における漏れ磁界・磁化の動的挙動を可視化する技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
273	軽金属材料及びプラスチックへの水素フリーDLC低温成膜技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	実用化に成功し事業化に間近
274	高出力産業用燃料電池スタック実現のための金型技術、金属プレス技術、実装技術及びびめっき技術の高度化事業	研究中止または停滞中	研究実施中
275	C F R P 複合材料部材の新レーザ溶接技術の開発	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
276	セラミックスシート（チップ抵抗器基板）への微小ピッチ、極微細孔の精密打ち抜き金型の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功し、継続的な取引が続いている
277	低振動化・温度自律補正機能を有した、超精密加工機械の開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
278	高機能ロボットに用いる力覚センサ（低価格化と組み込み性の向上）の開発	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
279	液晶表示用ガラス欠陥検査装置を高度化する画像処理ソフトウェアの開発と事業化	研究中止または停滞中	実用化に成功し事業化に向けて取り組み中
280	超薄膜セミアディティブ対応導電化ポリイミド基板の製造技術開発	実用化に成功し事業化間近	事業化に成功
281	ソバ発酵技術を利用した血圧降下作用を有する機能性食品素材の開発	研究中止または停滞中	研究実施中
282	水素ステーションの低コスト化を実現するプレート式熱交換器の低圧拡散接合技術の開発	実用化間近	実用化に成功し事業化に間近

サポインマッチ・ナビ改修検討を下記内容で実施しました。

①第三者による分析・評価

- ・サポインマッチ・ナビの改修検討にあたって、第三者目線による分析・評価を実施することで、これまで構築に携わってきた当該者が気づかなかった改善案を作成しました。
- 分析・評価は下記のウェブマーケティングの専門業者に依頼しました。

②改修内容の決定

- ・第三者による分析・評価の内容、弊社の改善案、中小企業庁様からの改善要望を協議・精査し、テストサイトに反映する内容を決定しました。

③テストサイトへの反映

- ・②で決定した改修内容をテストサイトに反映しました。

※具体的な改修内容、および改修後の画面イメージは次ページ以降をご参照ください。
改善事項は下記ボックスに記載しています。

< 現行 >



< 改善案 >



< 現行 >



ニュース

相談窓口

検索

サイトマップ

文字サイズ

標準

大

色の変更

標準

青

黄

黒

サポインとは？

サポイン申請を
考えている方サポイン実施中
卒業企業サポイン企業と
連携したい方

よくあるご質問

資料ダウンロード

ロゴは白に変更



ロゴは白に変更



ロゴを白に変更



< 改善案 >



ニュース

相談窓口

検索

文字サイズ

標準

大

色の変更

白

青

黄

黒

サポインとは？

申請を
考えている方サポイン実施中
卒業企業サポイン企業と
連携したい方

よくあるご質問

資料ダウンロード



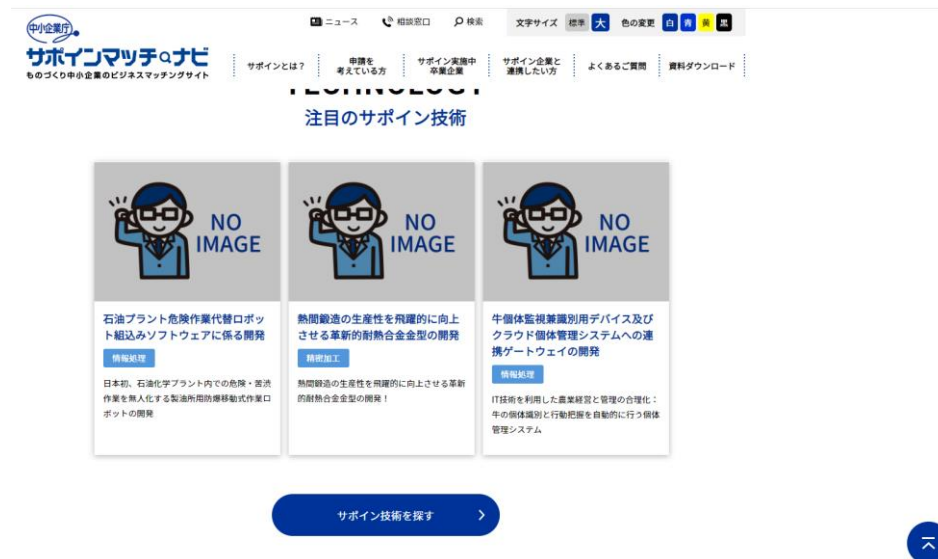
<現行>



<改善案>



<スクロール時の画面>



< 現行 >

事業と関係が薄い画像は入れない、
もしくは差し替え



< 改善案 >

※画像はデザイン案決定後、正式なものに
差し替えます



< 現行 >

文字が小さすぎて視認性が低い

このコンテンツはNEWSのすぐ下に
持ってきた方が良い

WHAT'S サポイン

サポインとは？

我が国製造業の国際競争力の強化と新たな事業の創出のために、
高度なモノづくり基盤技術を担う中小企業に対して、法的措置をはじめ、研究開発、金融など、総合的に支援しています。

自社の「強み」を活かした研究開発計画の作成



< 改善案 >



NEWS

2020.06.27 最新記事 令和2年度「製造業向け技術開発支援事業」の補助金交付について

2020.06.27 最新記事 令和2年度「製造業向け技術開発支援事業」の補助金交付について

2020.06.27 最新記事 サポインマッチナビの2020年度企業向けセミナー開催について

WHAT'S サポイン

サポインとは？

我が国製造業の国際競争力の強化と新たな事業の創出のために、
高度なモノづくり基盤技術を担う中小企業に対して、法的措置をはじめ、研究開発、金融など、総合的に支援しています。

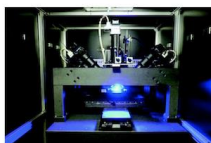


< 現行 >

「好事例」の定義づけがされていない。

CASES

サポイン好事例



ソフトウェア株式会社

自社技術が持つ強みを活かし、製品を世に出すことを強く意識した研究開発目標を設定

組合・実証

本サポイン事業の共同研究先である産業技術総合研究所（産総研）では、従来より「半導体製造プロセスにおける微細先端パンプ」の研究開発を実施していたのだが、その中で微細先端パンプを高速で検査する技術を開発していた。様々な技術を比較検討した結果、…



鈴見株式会社

チームワークを活かして、軽量・高強度で価格競争力のあるアルミテーパーハンドルの事業化を目指す

精密加工

当社は、大正2年創業、創立100年を超える、従業員180名の会社で、各種鋼材の販売や四輪車・二輪車用部品、輸出用梱包ケースなどの金属加工を手掛けている。二輪車向けのパイプハンドルは、月1万〜2万本ペースで国内大手二輪車メーカーに供給している。米国…



株式会社ソルテック

強力な研究開発推進体制を構築、新たに発生した課題も関係者との密なコミュニケーションを通じて対応し研究開発を実施

精密加工

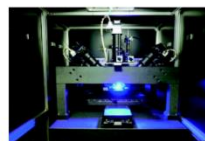
山形県工業技術センターの試験設備に株主である川下企業との共同案件で訪問した際に、試験場の方より、サポイン事業の紹介を受けた。当社は長く大手テレビメーカーから多くの仕事を受けていたのだが、生産拠点が海外に移りつつあった時期、新たな顧客開拓…

< 改善案 >

CASES

サポイン好事例

サポインで開発した技術が事業化し売上アップに繋がった、等の成功事例を紹介しています。



ソフトウェア株式会社

自社技術が持つ強みを活かし、製品を世に出すことを強く意識した研究開発目標を設定

組合・実証

本サポイン事業の共同研究先である産業技術総合研究所（産総研）では、従来より「半導体製造プロセスにおける微細先端パンプ」の研究開発を実施していたのだが、その中で微細先端パンプを高速で検査する技術を開発していた。様々な技術を比較検討した結果、…



株式会社創晶

産業界からのリクエストを解決するために、産学連携、企業連携によるチームで加速して、世界最高品質の深紫外レーザ加工機用の波長変換素子を開発・実用化

組合・実証

株式会社創晶（以下、創晶）の立ち上げは2005年、CLBO（C&LJ6010）は1993年に大阪大学（以下、阪大）で発見され、特許はJSTに帰属している。JST、NEDOプロジェクトを経て実用化した波長変換素子である。物性に優れ、基本特許は既に切れているが、製造法や…



吉川化成株式会社

原料供給一部加工・ユニット製造のサプライチェーンにおける強固な連携のもとでの商品開発により、高機能化、コストダウンを達成

立体成形

平成20年より、熱硬化性樹脂によるリフローレンズ、携帯電話のカメラレンズを作りたいという方針から、新日鉄住金化学（株）の熱硬化樹脂エスドリマーについて調査し、加工方法を開発しようとした。当社の材料加工方法とのマッチングを検討するため、材料選…

[好事例一覧へ](#)

< 現行 >

技術検索
好事例

サポインとは？

トップ > サポインとは？

サポインとは？

サポイン Supporting Industry

中小企業の研究開発・試作品開発などを支援する事業

サポインとは？

- > サポインとは？
- > サポイン事業の実績
- > サポイン申請をご検討の方へ
- > サポインで開発された技術を見る
- > サポイン事業好事例を見る

サポイン（戦略的基礎技術高度化支援事業）は「Supporting Industry」の略で、中小企業・小規模事業者が大学や公設試験研究機関、他の企業などと共同で我が国産業を支えるものづくり基礎技術の高度化に向けた研究開発や試作品開発、販路開拓などの取組を支援するものです。最大3年間、合計で9,750万円の補助金を受けることができます。サポインでは、日本のものづくりの「競争力強化」と「新たな事業の創出」を目指しており、これまで2,000件を超える中小企業・小規模事業者による研究開発プロジェクトを支援しています。

こちらの画像を入れるべき



情報は
< サポインとは？ >
> サポインについて
> 採択状況について
> 事業化状況について
とした方が分かりやすい

「狭き門」を通った、選ばれた技術

サポインの支援を受けるには、取り組もうとする詳細な研究開発の計画を立て、申請を行い、審査の結果、採択されると支援が受けられます。つまり、サポイン事業に採択された研究開発は、「狭き門を通った、選ばれた事業」ということになります。

特に、サポインの採択を受けた企業は川中企業の生産性や品質の工場、コストの低減など企業の競争力の工場に活かせる技術や製品などの成果が出ています。

サポイン申請をご検討の方へ >

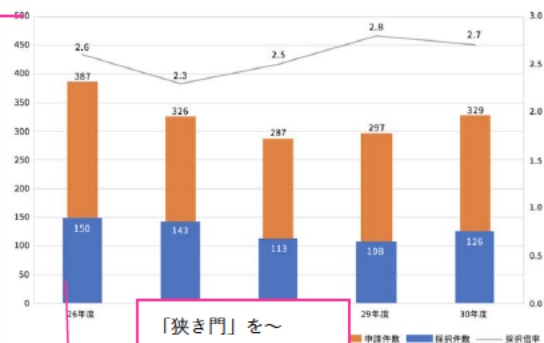
サポインで開発された技術を見る >

サポイン事業好事例を見る >

このナビゲーションは不要

○ サポインの実績

これまでの年度別採択状況



「狭き門」を～
のところで一緒に表
現する

＜改善案＞



[トップ](#) > [サボインとは？](#)

サポインとは？

サポイン Supporting Industry

中小企業の研究開発・試作品開発などを支援する事業

サイボン（戦略的基盤技術高度化支援事業）は「Supporting Industry」の略で、中小企業・小規模事業者が大学や公営試験機関、他の企業などと共に我が国産業を支えるものづくり基盤技術の高度化に向けた研究開発や試作開発、販路開拓などの取組を支援するものです。最大3年間、合計で9,750万円の補助金を受けることができます。

サイボンでは、日本のものづくりの「競争力強化」と「新たな事業の創出」を目指しており、これまで2,000件を超える中小企業・小規模事業者による研究開発プロジェクトを支援してまいります。



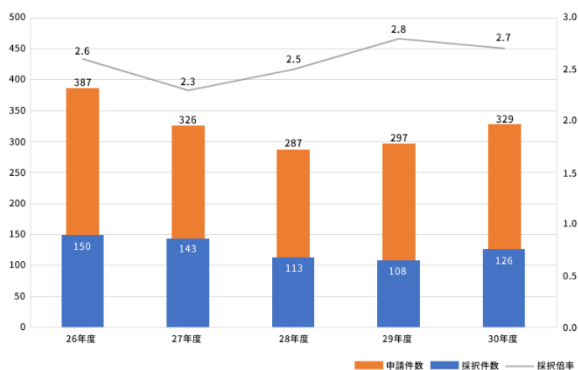
「狭き門」を通った、選り抜かれた技術

サイボインの支援を受けるには、取り組もうとする詳細な研究開発の計画を立て、申請を行い、審査の結果、採択されると支援が受けられます。つまり、サイボイン事業に採択された研究開発は、「狭き門を通った、選り抜かれた事業」ということになります。

現に、サポインの採択を受けた企業は川下企業の生産性や品質の工場、コストの低減など企業の競争力の工場に活かせる技術や製品などの成果が出ています。

○ サポインの実績

これまでの年度別採択状況



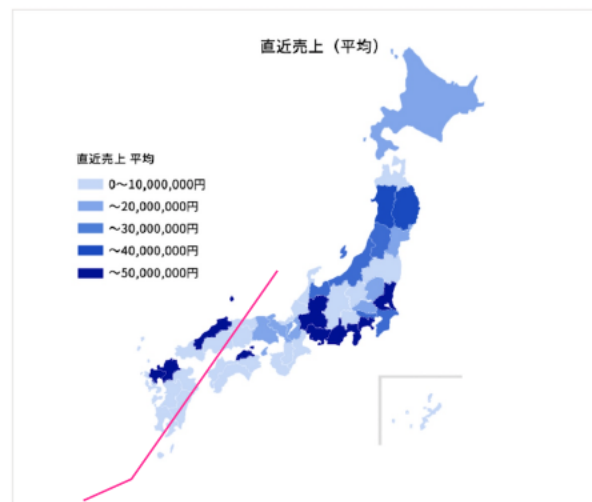
※平成26年度以前のデータは下記資料をご覧ください。

「これまでの戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン）・支援実績」

<https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php/files/download/file/18/491>

[さらに詳しく見る](#)

< 現行 >



・中
自
動
す
し
同色のグラフのためメリハリが
なく見づらい

・事業化に至った場合には売り上げ拡大につながりや

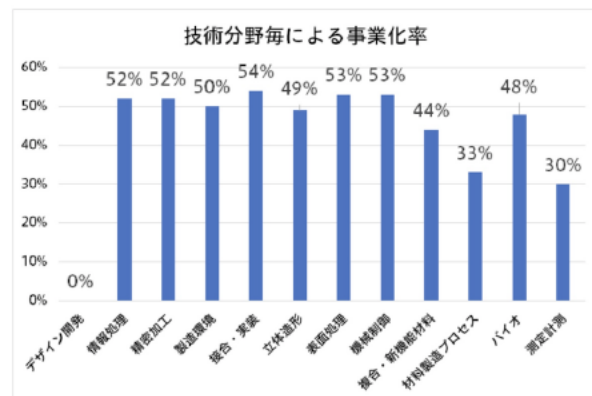
< 改善案 >

< 都道府県毎による事業化状況 >



・北日本における事業化率が高い。
地域に根付いた産業に対して安定取引が確保しやすいと推察される

< 技術分野毎による事業化状況 >

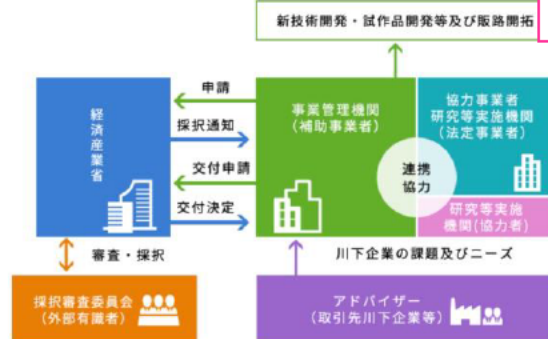


< 現行 >

○ 制度の概要

サポインは、中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律（以下「ものづくり高度化法」といいます。）に基づくデザイン開発、精密加工、立体造形等の12技術分野を対象として中小企業・小規模事業者・大学・公設試等の研究機関と連携して行う、製品化につながる可能性の高い研究開発、試作品開発等及び開拓への取組を一貫して支援するものです。

申請を考えている方への情報として最初制度についての概要を持ってくる方がよい



○ サポインの特徴

1. 最大97,500,000円の補助金の交付を受けられる（3年間の合計）

- ・サポイン事業として採択されると、研究開発等に要する対象経費の3分の2以内の補助金を受けられます。（共同体として参画する大学・公設試等は対象（上掲額以内で金額））
- ・補助上限額は、毎年度当たり4,500万円、3年間の合計で9,750万円となります。
- ・補助対象となる事業期間は、2年又は3年です。
- ・補助対象となる経費は物品費、7件費・旅費、旅費、委託費など、研究開発に必要な経費を幅広く認めています。

次はサポインの特徴（メリット）を掲載し、申請意欲を高めてもらえ

事業期間	2～3年度
補助上限	毎年度4,500万円 3年間の合計で9,750万円以内
補助率	2/3以内 ※大学・公設試等は定額
補助対象経費	人件費、庶務機材装置等の設備備品費、材料品費、委託費 等



2. 新たなネットワークの構築

・サポイン事業は1企業（団体）単独では申請できず、大学等の研究機関や事業管理機関と共同体を構成する必要があります。サポインをきっかけとして、これまでとは異なるつながり・ネットワークの構築や、自社だけではできなかったより深い研究開発を行うことができます。さらにサポイン事業にとどまらず、新たな研究開発実施等につなげていただくことができます。

3. 人材の育成

・新たな技術の研究開発を行うことで社内の人材育成・モチベーションの向上につながる、という面もあります。サポイン事業を進めるには、技術的な側面に加え、社内外の方々とコミュニケーション・調整が多く必要となり、関わるメンバーの成長が期待できます。

4. サポイン事業以外にも様々な支援を受けられる

・サポインで開発した技術等を対象とした展示会出展における支援等、サポイン事業以外に受けられる支援メニューを提供しています。

<改善案>



トップ > サポイン申請をご検討の方へ

○ 制度の概要

サポインは、中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律（以下「ものづくり高度化法」といいます。）に基づくデザイン開発、精密加工、立体成形等の12技術分野を対象として中小企業・小規模事業者が大学・公設試等の研究機関と連携して行う、製品化につながる可能性の高い研究開発、試作品開発等及び販路開拓への取組を一貫して支援するものです。



○ サポインの特徴

1. 最大97,500,000円の補助金の交付を受けられる（3年間の合計）

- ・サポイン事業として採択されると、研究開発等に要する対象経費の3分の2以内の補助金を受けられます。（共同体として申請する大学・公設試等は定額（上限額以内で全額））
- 補助上限額は、半年度あたり4,500万円、3年間の合計で9,750万円となります。
- ・補助対象となる事業期間は、2年又は3年です。
- ・補助対象となる経費は物品費、7件費、謝金、旅費、委託費など、研究開発に必要な経費を幅広く認めています。

事業期間	2～3年度
補助上限	半年度4,500万円 3年間の合計で9,750万円以内
補助率	2/3以内 ※大学・公設試等は定額
補助対象経費	人件費、旅費機械装置等の設備品費、消耗品費、委託費 等

サポイン申請を考えている方

- > サポイン申請をご検討の方へ
- > 申請手続き案内
- > 事業管理機関を探す
- > 研究等実施機関を探す
- > サポイン好事例をみる
- > サポイン事業の光輝



2. 新たなネットワークの構築

- ・サポイン事業は1企業（団体）単独では申請できません。大学等の研究機関や事業管理機関と共同体を構成する必要があります。サポインをきっかけとして、これまでとは異なるつながり・ネットワークの構築や、自社だけではできなかったより深い研究開発を行うことができます。さらにサポイン事業にとどまらず、新たな研究開発先等につながっていただくことができます。

3. 人材の育成

- ・新たな技術の研究開発を行うことで社内の人材育成・モチベーションの向上につながる、という面もあります。サポイン事業を進めるには、技術的な側面に加え、社内外の方々とのコミュニケーション・調整が多く必要となり、関わるメンバーの成長が期待できます。

4. サポイン事業以外にも様々な支援を受けられる

- ・サポインで開発した技術等を対象とした展示会・公開展における支援等、サポイン事業以外に受けられる支援メニューを提供しています。

サポイン好事例を見る >

サポインの実績を見る >

○ 申請対象者

- 中小企業・小規模事業者を中心として大学、公設試験研究機関、最終製品を生産する川下製造業者、自社以外の中小企業者など、2社以上で共同体を組んでいる必要があります。

- 共同体の組織員は、日本国内において事業を営み、本社を置き、かつ、研究開発等を行う必要があります。

その他詳細は公募時の公募要領をご確認ください。

事業管理機関を探す >

研究等実施機関を探す >

○ 申請対象事業

- 本事業の申請対象事業は、ものづくり高度化法第3条に定める「特定ものづくり基盤技術高度化施設」に記載された内容に関する研究開発等が対象となります。

- 本事業の補助対象は、製品化につながる可能性の高い研究開発、試作品開発及び販路開拓への取組までですが、事業化までの段階が明確に附いているものが対象となります。

その他詳細は公募時の公募要領をご確認ください。

申請手続きについて >

< 現行 >



トップ > まるとん！申請手続き案内

サポイン事業申請の流れ

公募開始から申請までの流れは概ね下記の通りになると想定されます。
各ステップの詳細をご確認いただき、ご準備ください。



公募開始

- ・公募が開始される際、公募要領も合わせて公告されます。
公募の都度、内容が変更される場合がありますので必ず公募要領をご確認ください。
- ・公募期間は都度、変わりますが概ね開始から締め切りまで約3ヶ月間となります。

2020.06.22 公募情報 令和2年度予算「戦略的基盤技術高度化支援事業」の補助事業者の採択について

2020.03.27 公募情報 令和2年度予算「戦略的基盤技術高度化支援事業」の公募について

「まるとん！」というタイトルは不要

縦並びの図は読みづらいこと・スマホで見づらいため、横並びにした方がよい

公募情報のリンクを表示させた方がよい

スマホページ



公募開始

- ・公募が開始される際、公募要領も合わせて公告されます。
公募の都度、内容が変更される場合がありますので必ず公募要領をご確認ください。
- ・公募期間は都度、変わりますが概ね開始から締め切りまで約3ヶ月間となります。

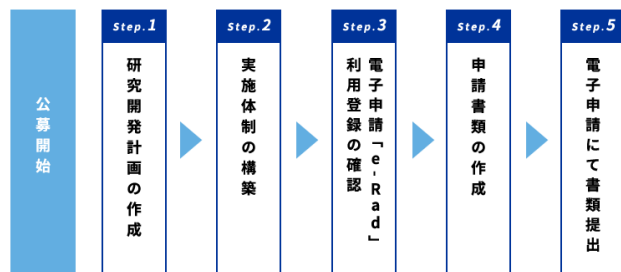
<改善案>

申請手続き案内

トップ > 申請手続き案内

サポイン事業申請の流れ

公募開始から申請までの流れは概ね下記の通りになると想定されます。
各ステップの詳細をご確認いただき、ご準備ください。



公募開始

- ・公募が開始される際、公募要領も合わせて公告されます。
- ・公募の都度、内容が変更される場合がありますので必ず公募要領をご確認ください。
- ・公募期間は都度、変わりますが概ね開始から締め切りまで約3ヶ月間となります。

公募情報



トップ > 申請手続き案内

サポイン事業申請の流れ

公募開始から申請までの流れは概ね下記の通りになると想定されます。
各ステップの詳細をご確認いただき、ご準備ください。



公募開始

- ・公募が開始される際、公募要領も合わせて公告されます。
- ・公募の都度、内容が変更される場合がありますので必ず公募要領をご確認ください。
- ・公募期間は都度、変わりますが概ね開始から締め切りまで約3ヶ月間となります。

公募情報



< 現行 >

基盤技術分野 ▼ 事業化状況 ▼ 所在地 ▼ フリーワード ▼ 詳細条件 ▼ 検索 (17件)

☒ デザイン開発 (17) ☐ 情報処理 (152) ☐ 精密加工 (471) ☐ 製造環境 (57)

☐ 接合・実装 (220) ☐ 立体造形 (283) ☐ 表面処理 (160) ☐ 機械制御 (110)

☐ 複合・新機能材料 (241) ☐ 材料製造プロセス (58) ☐ バイオ (130) ☐ 測定計測 (83)

基盤技術分野 | X デザイン開発

選択中の検索条件をリセットする >

リセットボタンは色を変えた方がよい

< 改善案 >

基盤技術分野 ▼ 事業化状況 ▼ 所在地 ▼ フリーワード ▼ 詳細条件 ▼ 検索 (17件)

☒ デザイン開発 (17) ☐ 情報処理 (152) ☐ 精密加工 (471) ☐ 製造環境 (57)

☐ 接合・実装 (220) ☐ 立体造形 (283) ☐ 表面処理 (160) ☐ 機械制御 (110)

☐ 複合・新機能材料 (241) ☐ 材料製造プロセス (58) ☐ バイオ (130) ☐ 測定計測 (83)

基盤技術分野 | X デザイン開発

選択中の検索条件をリセットする >

< 現行 >

「ブランド技術」の構築に向け独自のコア技術となる溶接工法技術を開発し、新たな付加価値を顧客に提供

プロジェクト名： 自動車衝突安全規制に適合するステアリングコラムの溶接技術開発

基盤技術分野：  接合・実装

事業終了年度： 平成30年



企業名を表記したほうが良い

< 改善案 >

「ブランド技術」の構築に向け独自のコア技術となる溶接工法技術を開発し、新たな付加価値を顧客に提供

企業名： 高橋金属株式会社

プロジェクト名： 自動車衝突安全規制に適合するステアリングコラムの溶接技術開発

基盤技術分野：  接合・実装

事業終了年度： 平成30年



< 現行 >

トップ > サポイン好事例検索 > 「ブランド技術」の構築に向け独自のコア技術となる溶接工法技術を開発し、新たな付加価値を顧客に提供

h1

「ブランド技術」の構築に向け独自のコア技術となる溶接工法技術を開発し、新たな付加価値を顧客に提供



(前列左から) 高橋金剛株式会社 西村様、北村様
(後列左から) 滋賀県産業支援プラザ 船越様、篠原様
滋賀県工業技術総合センター 今道様
滋賀県東北部工業技術センター 安田様

h2

「ブランド技術」を構築し、価値創造することを重視

h3

企業としての技術開発に対する理念を教えてください。

当社は金属加工技術を基盤として、大手メーカー向けの各種精密機械部品の製造からユニット組立品、組立完成品の製造へと業務を拡大しており、組立まで一貫生産していることと多量種への対応が可能であることが強みである。また、市場創造型企業への転換を目指して、約20年前に独自の電解イオン水脱脂洗浄機の事業化に成功し、現在、国内および海外で事業を展開している。将来を見据えて、加工・組立といったモノづくりをしっかりとつちつと、独自の高度コア技術の展開をはかって部品加工をしていくことで、グローバルな事業創造を目指すことが、当社の方針となっている。国等の研究開発支援補助金を受け、独自の技術を開発し、価値創造することによって「ブランド技術」を構築したい、という思いで進んでいる。

段落、文字間、行間隔をみやすいサイズに調整したほうがよい

H1 h2 h3 pタグの調整が必要です。読みやすさを重視した工夫をしたほうがよい

サイドバーにレコメンドがでてみられる可能性が低いので、コンテンツの最後に配置したほうがよい

< 改善案 >

「ブランド技術」の構築に向け独自のコア技術となる溶接工法技術を開発し、新たな付加価値を顧客に提供



(前列左から) 高橋金剛株式会社 西村様、北村様
(後列左から) 滋賀県産業支援プラザ 船越様、篠原様
滋賀県工業技術総合センター 今道様
滋賀県東北部工業技術センター 安田様

「ブランド技術」を構築し、価値創造することを重視

企業としての技術開発に対する理念を教えてください。

当社は金属加工技術を基盤として、大手メーカー向けの各種精密機械部品の製造からユニット組立品、組立完成品の製造へと業務を拡大しており、組立まで一貫生産していることと多量種への対応が可能であることが強みである。また、市場創造型企業への転換を目指して、約20年前に独自の電解イオン水脱脂洗浄機の事業化に成功し、現在、国内および海外で事業を展開している。将来を見据えて、加工・組立といったモノづくりをしっかりとつちつと、独自の高度コア技術の展開をはかって部品加工をしていくことで、グローバルな事業創造を目指すことが、当社の方針となっている。国等の研究開発支援補助金制度の活用については、高度コア技術を開発し、高度技術のなかで「ブランド技術」を構築したい、という思いで進んでいる。

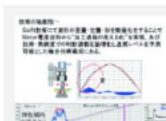
同じ技術分野のサポイン好事例



東北マイクログロテック株式会社
世界最小レベルの5μmピッチの金円盤パンプ・円筒パンプを使った
精密技術を開発



立山科学工業株式会社
多数な弊型とアイデアが技術の
構築を可能にする



株式会社ブレイド
社外関係者との密なコミュニケーションと地道な試行錯誤が顧客を
惹きつける高度なモノづくり技術
に結実

⇒
(レコメンドは
最下部に掲載)

< 現行 >

サポイン技術紹介

トップ > サポイン技術検索 > プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

精密加工

h1 プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

宮城県 キョーユー株式会社

2020年3月16日更新

基本情報 詳細 事業化への取組 研究開発の体制 参考サイト 企業情報

h2 o プロジェクトの基本情報

プロジェクト名	安定でメンテナンス性に優れたプレス用金型(パンチ)の開発
基盤技術分野	精密加工
対象となる産業分野	自動車
産業分野でのニーズ対応	環境配慮、低コスト化
キーワード	プレス金型、分組パンチ、低コスト化、短納期、エコ

サポイン技術を探す

基盤技術分野

事業化状況

所在地

フリーワード

詳細条件

検索 (1982件)

同じ技術分野のサポイン技術



H1 h2 h3 pタグの調整が必要です。読みやすさを重視した工夫をしたほうがよい

サイドバーに Recommend が出現する可能性が低いので、コンテンツの最後に配置したほうがよい

o プロジェクトの詳細

h3 事業概要

自動車部品のプレス加工で使用される金型において、高寿命化とメンテナンス性の向上が両立でき、ランニングコストを大幅に削減可能な、新しい構造を持つ抜き及び曲げパンチの設計・製造技術の開発となる。さらに曲げパンチの3次元形状の創成において、高コスト化の要因である従来の機械加工とは異なる、全く新しい手法を開発して製造コストの大幅な低減を実現する。

文字間、行間隔をみやすいサイズに調整したほうがよい

開発した技術のポイント

地域企業群の持つ精密プレス金型の製造技術を活用し、ランニングコストを低減させる、抜きパンチの設計・製造技術の開発を実施。

製造やメンテナンスのコストが高い三次元形状を持つ曲げパンチにおいて、低コスト化と短納期化を同時に実現する製造技術を開発。

具体的な目標値は以下のとおり。

《抜きパンチ》

1. パンチの製造費が従来品と同等。

2. 刃先寿命が従来品の4倍以上で、年間のランニングコストが従来品の25%以下。

3. 刃先のメンテナンスが容易で現場の作業員が行えること。またメンテナンス作業時間が従来の1/12以内で完了できること。

4. パンチの寿命が3500万ショット以上。

《曲げパンチ》

5. 三次元刃先形状の作製費がパンチ全体の費用の20%以下。

6. 刃先寿命が従来品と同等。

7. 従来品の1/5以下の納期で三次元刃先形状が作製できること。

———同じ技術分野のサポイン好事例———



株式会社八木熊

PEEK含炭素繊維プリプレグシートの高ブリッド精密成形技術によるX線透過型開胸器の開発・事業化

精密加工



株式会社八木熊

PEEK含炭素繊維プリプレグシートの高ブリッド精密成形技術によるX線透過型開胸器の開発・事業化

精密加工



株式会社八木熊

PEEK含炭素繊維プリプレグシートの高ブリッド精密成形技術によるX線透過型開胸器の開発・事業化

精密加工

検索一覧
に戻る

<改善案>

サポイン技術紹介

トップ > サポイン技術検索 > プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

精密加工

プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

登録 京コーユー株式会社

2020年3月16日更新

基本情報 ▾ 詳細 ▾ 事業化への取組 ▾ 研究開発の体制 ▾ 参考サイト ▾ 企業情報 ▾

プロジェクトの基本情報

プロジェクト名	安価でメンテナンス性に優れたプレス用金型(パンチ)の開発
基盤技術分野	精密加工
対象となる産業分野	自動車
産業分野でのニーズ対応	環境配慮、低コスト化
キーワード	プレス金型、分別パンチ、低コスト化、短納期、エコ
事業化状況	事業化に成功し継続的な取引が続いている
事業実施年度	平成18年度～平成19年度

サポイン技術を探す

基盤技術分野

事業化状況

所在地

フリーワード

詳細条件

検索 (1302件)

プロジェクトの詳細

事業概要

自動車部品のプレス加工で使用される金型において、高寿命化とメンテナンス性の向上が両立でき、ランニングコストを大幅に削減可能な、新しい構造を持つ抜き及び曲げパンチの設計・製造技術の開発となる。さらに曲げパンチの3次元形状の創成において、高コスト化の要因である従来の機械加工とは異なる、全く新しい手法を開発して製造コストの大幅な低減を実現する。

開発した技術のポイント

地域企業群の持つ精密プレス金型の製造技術を活用し、ランニングコストを低減させる、抜きパンチの設計・製造技術の開発を実施。

製造やメンテナンスのコストが高い三次元形状を持つ曲げパンチにおいて、低コスト化と短納期化を同時に実現する製造技術を開発。

具体的な目標値は以下のとおり。

《抜きパンチ》

1. パンチの製造費が従来品と同等。
2. 刃先寿命が従来品の4倍以上で、年間のランニングコストが従来品の25%以下。
3. 刃先のメンテナンスが容易で現場の作業員が行えること。またメンテナンス作業時間が従来の1/12以内で完了できること。

4. パンチの寿命が3500万ショット以上。

《曲げパンチ》

5. 三次元刃先形状の作製費がパンチ全体の費用の20%以下。
6. 刃先寿命が従来品と同等。
7. 従来品の1/5以下の納期で三次元刃先形状が作製できること。

同じ技術分野のサポイン技術



株式会社渋谷光学

医療現場改善と疾患早期発見に繋がるディスプレイ型内視鏡光学系の開発

精密加工



有限会社山内エンジニアリング

圧倒的な高品質・低価格を実現するプレス複合深絞り技術を実現した汎用プレス機用金型の開発

精密加工



エムケイ株式会社

シミュレーション支援室の設置によるプレス金型製造の短納期化技術の開発

精密加工

⇒
(レコメンドは
最下部に掲載)

< 現行 >

- ・メニューは左揃えにする
- ・相談窓口、ニュースへの導線がないため表記すべき

中小企業庁のマークによりロゴとコピーが小さくなっている。中小企業庁のマークはロゴの右においた方がよい。

メニューがコンテンツに被するため削除したほうがよい

キービジュアルがスマホサイズに対応していない（PCのビジュアルを流用しているため）。
スマホ用のキービジュアルのサイズとレイアウトを下記を参考に作成したほうがよい。

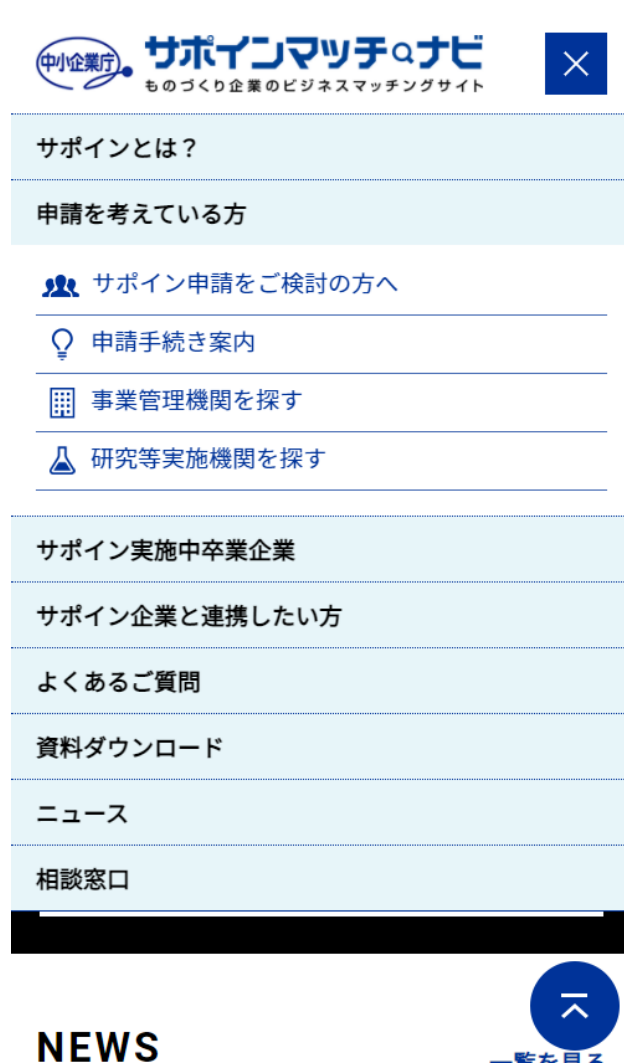


↑
TOPに戻る

TOPに戻るボタンを設置すべき



<改善案>



現在のサポイン技術登録数

1,982件

サポイン技術を探す

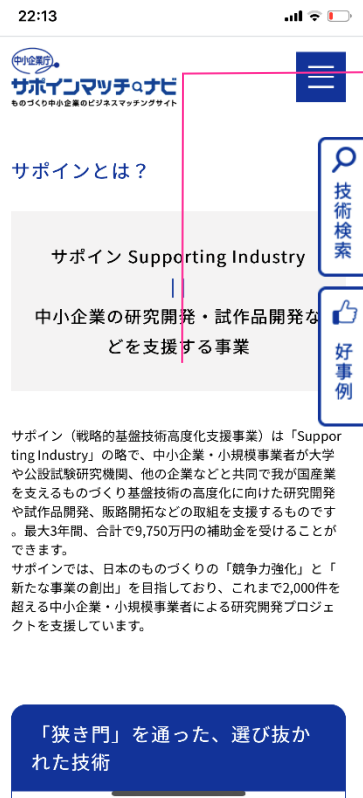
< 現行 >



<改善案>



< 現行 >



スマホは文字の大きさ、文字間、行間の調整により読みやすさが大きく変わる。

下記の参考レイアウトのように文字の調整をした方がよい。

(Yahoo!ニュースのサイズ)

< 参考レイアウト >



首都圏からも観光客を集める「道後温泉本町」前。平日も大きな荷物を持った観光客らの姿がみられる＝松山市で2020年12月15日午前11時10分、斎藤憲志撮影

新型コロナウイルスの感染拡大で28日から来年1月11日まで全国一斉に一時停止となった政府の旅行需要喚起策「GoToトラベル」事業。発表から一夜明けた15日、観光地の旅館や旅行会社は早くもキャンセルなどの対応に追われた。年末年始の予約客を集めていただけに「死活問題だ」「創業以来、最も厳しい冬になる」と悲鳴が上がる。

【写真】疫病退散を願い... 各地の「アマビエ」ずらり

◇「まさかこの時期に」

四国有数の温泉街・松山市の道後地区。旅館・ホテル計32施設が加盟する道後温泉旅館協同組合によると、14日夜に一時停止が発表されて以降、

< 改善案 >



トップ > サポインとは？

サポインとは？

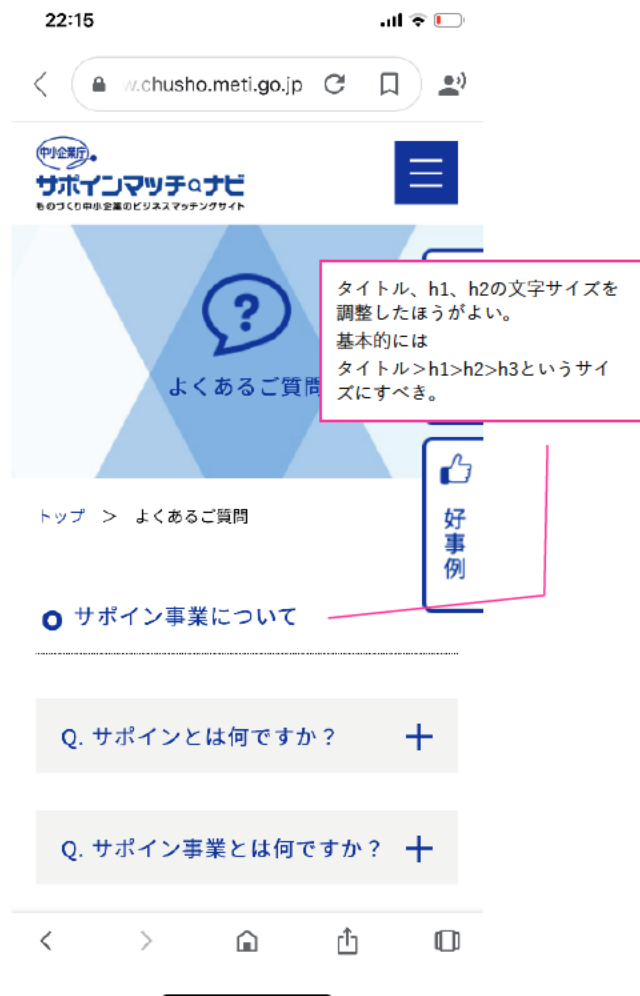
サポイン Supporting Industry

||
中小企業の研究開発・試作品開発などを支援する事業

サポイン（戦略的基盤技術高度化支援事業）は「Supporting Industry」の略で、中小企業・小規模事業者が大学や公設試験研究機関、他の企業などと共同で我が国産業を支えるものづくり基盤技術の高度化に向けた研究開発や試作品開発、販路開拓などの取組を支援するものです。最大3年間、合計で9,750万円の補助金を受けることができます。

サポインでは、日本のものづくりの「競争力強化」と「新たな事業の創出」を目指しており、これまで2,000件を超える中小企業・小規模事業者による研究開発プロジェクトを支援しています。

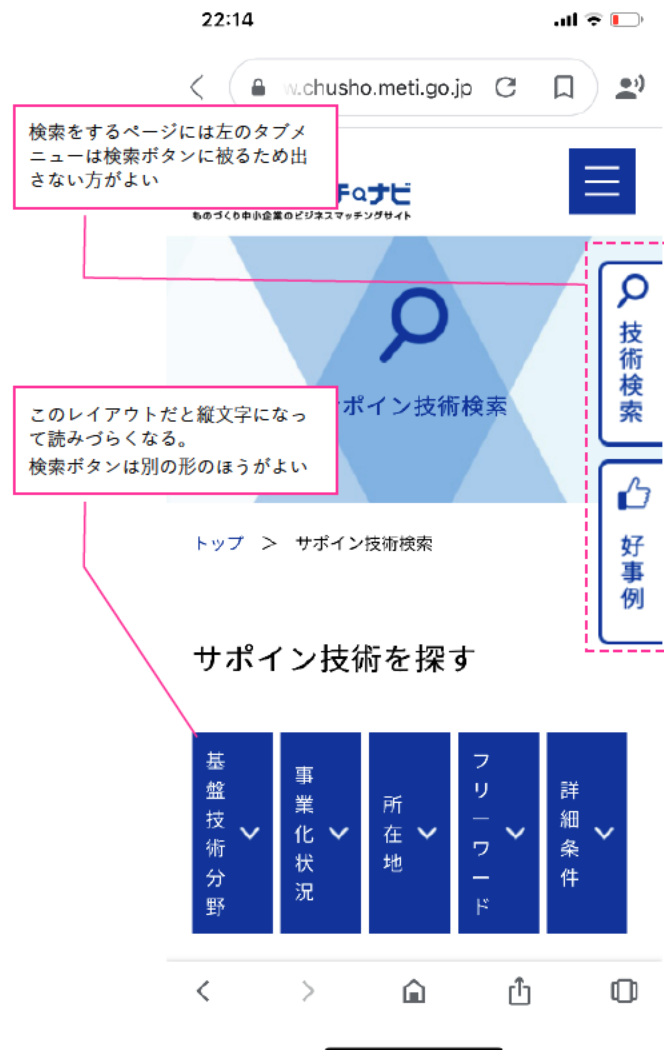
< 現行 >



< 改善案 >



< 現行 >



< 改善案 >



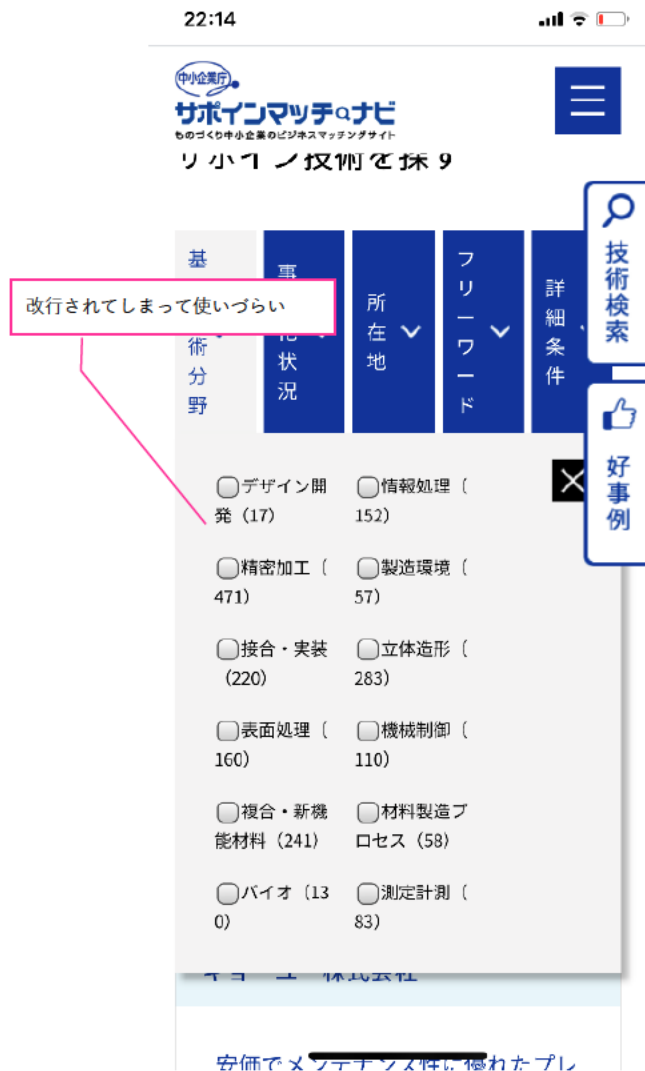
トップ > サポイン技術検索

サポイン技術を探す

基盤技術分野 ▼	事業化状況 ▼
所在地 ▼	フリーワード ▼
詳細条件 ▼	

検索 (1982件)

< 現行 >



< 改善案 >



< 現行 >



トップ > サポイン技術検索 > プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

精密加工

プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

宮城県 キョーユー株式会社

基本情報 詳細 事業化への取組 研究開発の体制 参考サイト 企業情報

プロジェクトの基本情報

プロジェクト名	安価でメンテナンス性に優れたプレス用金型(パンチ)の開発
基盤技術分野	精密加工

サポイン技術を探す

基盤技術分野

事業化状況

所在地

フリーワード

詳細条件

検索 (1982件)

印刷の際、ヘッダーやサイドメニュー等、不要な部分が表示されており、綺麗に印刷できない

< 改善案 >



トップ > サポイン技術検索 > プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

精密加工

プレス用パンチの製造・ランニングコストを大幅に低減

宮城県 キョーユー株式会社

2020年3月16日更新

基本情報 詳細 事業化への取組 研究開発の体制 参考サイト 企業情報

プロジェクトの基本情報

プロジェクト名	安価でメンテナンス性に優れたプレス用金型(パンチ)の開発
基盤技術分野	精密加工
対象となる産業分野	自動車
産業分野でのニーズ対応	環境配慮、低コスト化

< 現行 >

タイトルとディスクリプションを確認したところ、一部のページにディスクリプションが入っていない。
検索結果に表示させた時に内容を示すものになるので各ページに入れた方がよい。

タイトル	URL	メタ・ディスクリプション	H1 タグ
サポインマッチ・ナビ	https://www.chusho.meti.go.jp/sapoin/index.php	(なし)	<code><h1 class="header-logo"></h1></code>

※ディスクリプションとは、google等で検索した際に、
検索結果一覧に表示される文章です。
設定が無い場合、google等検索エンジンが自動で判断・表示
します。

www.chusho.meti.go.jp > sapoin

サポインマッチ・ナビ - 中小企業庁

サポインマッチナビ 〜ものづくり企業のビジネスマッチングサイト〜 を公開しました。サポイン申請を考えている方、サポイン実施中・卒業企業、サポイン企業と連携したい方、サポインとは？ まる分かり！ 申請手続き案内、事業管理機関を探...

< 改善案 >

・ディスクリプションが入っていないページに、下記のようにディスクリプションを設定。（対象ページ一覧は次ページ以降を参照）

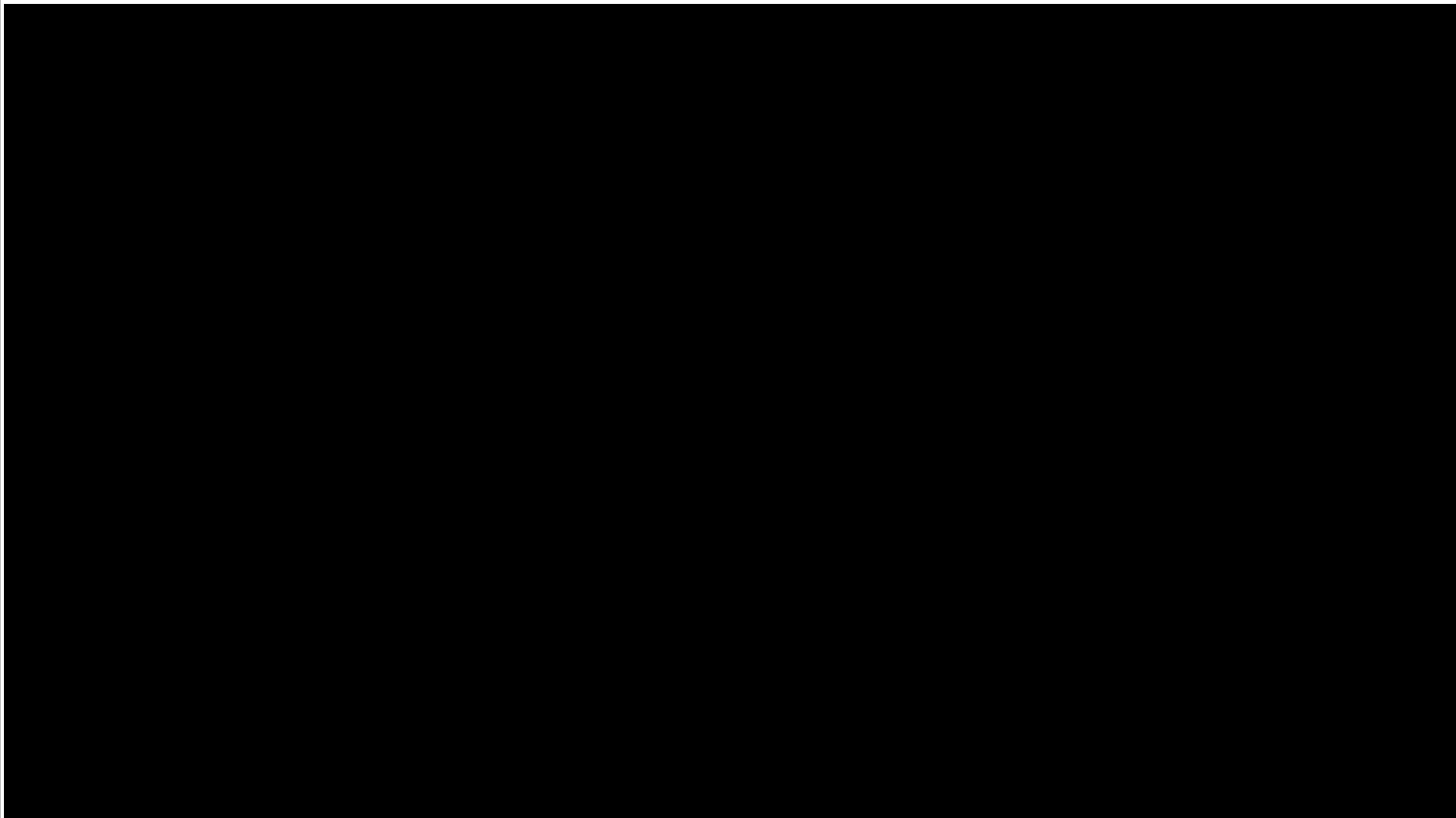
`<meta name="description" content="サポイン（中小企業の研究開発・試作品開発などを支援する事業）の制度や、開発された技術、支援機関等の情報を紹介するポータルサイトです">`

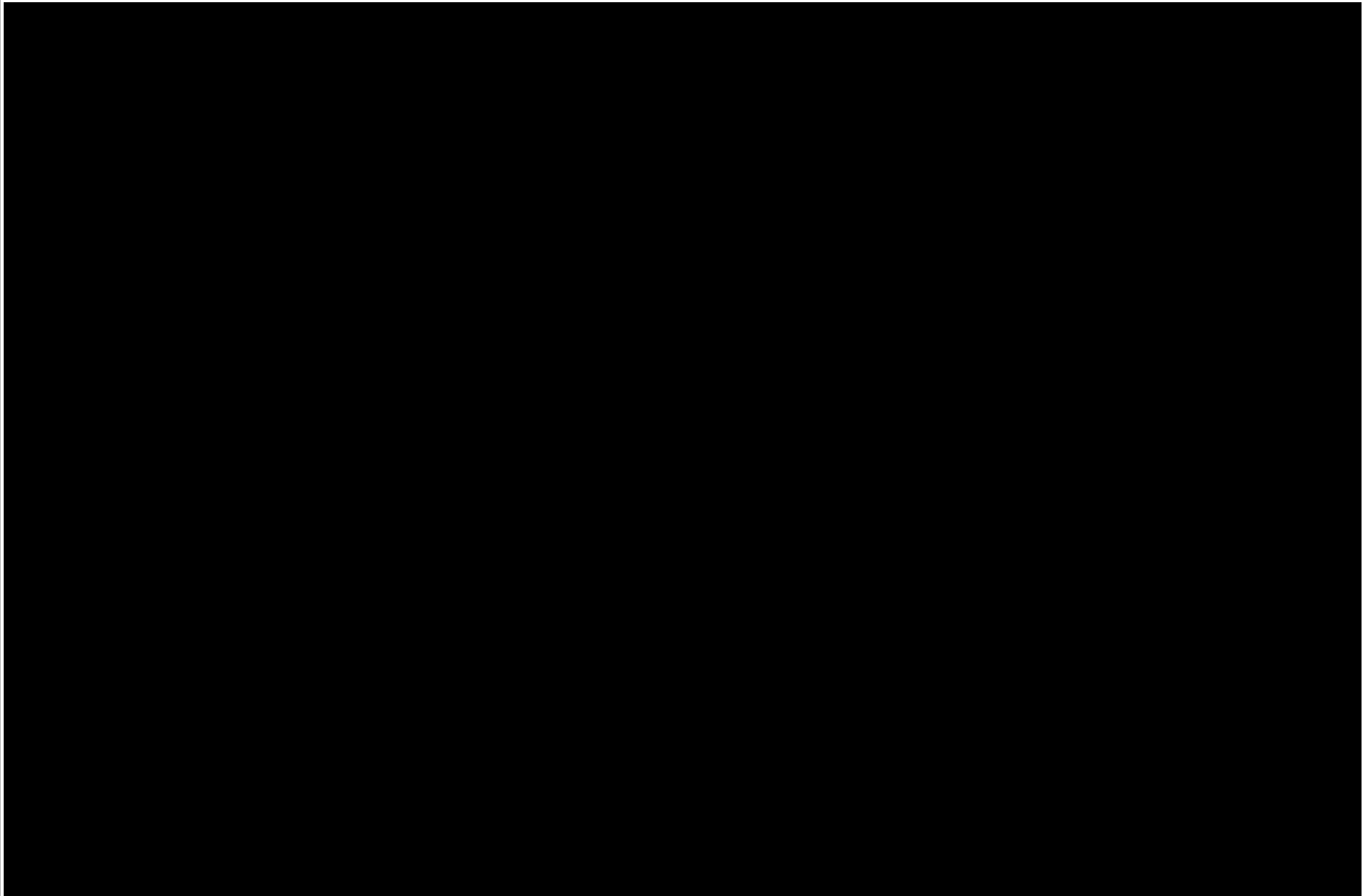
[illegible]

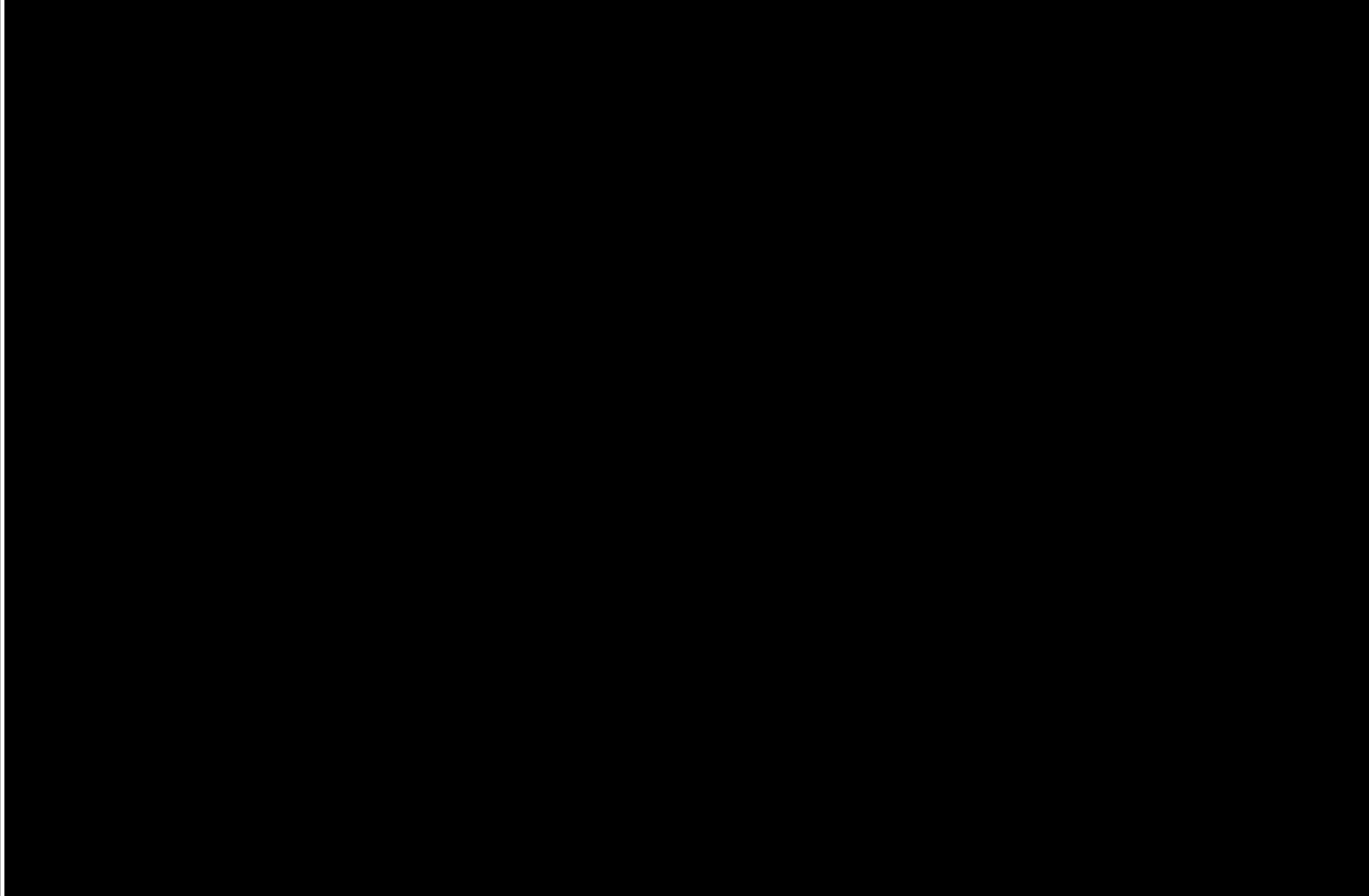
[illegible]

- ・サポインマッチ・ナビの認知度を上げ、より多くの方々に利用され続けるためには恒常的なサイトのPRが必要となります。

これまでチラシ作成や関連サイトへのバナー掲示（経済産業省、中小企業庁のサイト等）を行ってきましたが、その他に下記内容のPR案が考えられます。







■フォローアップ調査を支援するシステムの検討

<現状の課題>

- ・今回、サポイン案件管理システムを検討する中で、中小企業庁及び各局がサポイン事業終了後のフォローアップ調査にエクセルフォーマットを利用しており、回収後のとりまとめに時間を要していることが分かりました。

<考えられる課題解決策>

- ・調査方法をエクセルフォーマットから、会員制のウェブアンケートフォームを利用した仕組みにすることで、
 - －複数のエクセルデータ管理が不要
 - －エクセルフォーマットの崩れ防止
 - －入力エラーチェックによる表記ゆれ防止
 - －登録された内容の一覧をCSVで一括作成可能
 - －サポイン案件管理システムとの連動による入力作業の軽減

等のメリットにより、事務作業の効率化を図ることができると考えられます。

<仕組みの案（概要）>

- ・フォローアップ調査の回答を登録できるウェブサイトを構築。利用には会員登録が必要。

【回答機関（調査対象機関）の利用方法】

- ・サイトで会員登録するとマイページが作成され、フォローアップ調査の回答をフォームから入力、登録することができる。
 - 一度、登録した内容は修正することも可能。
- ・二回目以降のフォローアップ調査の際、前回の入力内容を閲覧したり、初期値をコピーできるようにすることで入力の軽減を図る。

【管理者（各局）の利用方法】

- ・管理者用画面から登録された内容を閲覧できる。
- ・年度等の条件を指定し、登録データの一覧をCSVで作成可能。
- ・回答機関からの登録があった際、担当の局には登録されたことをメールで通知する。

3 効果的な情報発信、事業化支援の在り方 II. 効率的な調査の実施

<懸念事項>

- ・これまでどおりエクセルフォーマットでの回答を希望された場合、各局でシステムに入力（転記）する必要があるため手間となる。
- ・すでに利用されている別の仕組み（電子申請「e-Rad」など）があり、様々なシステムが別々の用途で存在するため、回答機関がどんな時にどの仕組みを利用すればよいのか分からず混乱する恐れがある。